



TWIN BANDER

144MHz/430MHz FM TRANSCEIVER

C5700シリーズ

C5700/C5700D

C5710/C5710D

C5720/C5720D

取扱説明書

お買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

お使いになるまえに、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

また、この取扱説明書は大切に保管してください。

この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

C5700D/5710D/5720Dをご使用になる場合は、第2級アマチュア無線技士以上の資格が必要です。

本機は、国内仕様です。国外ではご使用になれません。

はじめに

ご使用前の準備

使いかたの基本を知ろう

もっと自由にあつかうために

メモリー機能を使うには

スキャン機能を使うには

レピータを使うには

こんな使いかたもできます

別売り品を使って

ご参考に

本書の読みかた

- 本書の説明は、工場より出荷され、お客さまが初めて電源を入れたときの状態より説明を行っています。
- 本書では次の記号を使っています。



…… 注意すること、守っていただきたいことを示します。



…… 覚えていると便利なこと、またはアドバイスを示します。



…… 参照するページを示します。

開梱しましたら、梱包品の確認をしてください。

梱包品一覧表

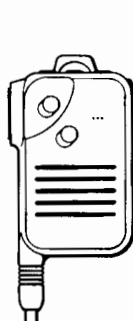
1. 取扱説明書 …………… 1
2. 保証書 …………… 1
3. 営業所一覧 …………… 1
4. ブロックダイアグラム …………… 1
5. 愛用者カード …………… 1
6. マイクロホン …………… 1

6-1 リモコンマイク:

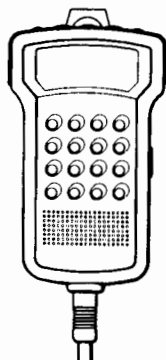
C5700/C5700Dに付属

6-2 フルリモコンマイク:

C5710/C5710D/C5720/
C5720Dに付属

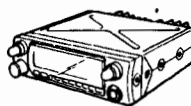


6-1



6-2

7. 無線機本体 …………… 1
- 7-1 C5700/C5700D/C5720/
C5720Dにセパレートカバーは付属
されていません。
- 7-2 C5710/C5710Dにコントロール
ヘッドは付属されていません。



7-1



7-2

8. 電源コード (赤・黒) 2.0m …………… 1
9. φ3.5 プラグ (EXT.SPKR用) …………… 1
10. 本体固定ブラケット …………… 1
11. モービルブラケット止めビス …………… 一式
- ボルト (M4mm × 8mm) …………… 4
- ボルト (M5mm × 20mm) …………… 4
- ナット (M5mm) …………… 4
- ワッシャー (M5mm) …………… 8
- スプリングワッシャー (M5mm) …………… 4
- タッピングビス (M5mm × 15mm) …………… 4
- 六角スパナ …………… 1
12. マイクハンガー …………… 1
13. 予備ヒューズ …………… 2
- 13-1 5A: C5700/C5710/C5720
に付属
- 13-2 12A: C5700D/C5710D/
C5720Dに付属
14. メモリーユニット CMU181 …………… 1
(本体に付属されています)

はじめに	5
ご使用上の注意	6
ご使用前の準備	7
車に取り付けるには	8
無線機の取り付けかた	8
コントロールヘッドの取りはずしかた	9
メモリーユニットの交換のしかた	9
電源ケーブルを接続するには	10
アンテナを取り付けるには	11
固定局で使うには	12
無線機の設置方法	12
アンテナを取り付けるには	12
使いかたの基本を知ろう	13
電源を入れるには	14
音量を調整するには	15
スケルチを調整するには	16
バンド（周波数帯）を選択するには	17
受信するには（周波数を合わせるには）	18
送信するには	19
その他の基本的な使いかたについて	20
ディスプレイの照明を暗くするには（ディマー）	20
フルリモコンマイクのリモコン操作について	20
各部の名称と動作	21
もっと自由にあつかうために	29
周波数ステップを変えるには	30
周波数を 1 MHz ステップで変えるには：SET12	31
周波数を直接入力するには：SET07	32
（ダイレクト入力）	
コール周波数（呼び出し周波数）を使うには	33
コール周波数を変えるには	34
コール周波数に各種設定を書き込むには	35
間違って操作するのを防ぐには	36
（キーロック）	
キーロック中にメインダイヤルツマミを働かせるには	37
〈メインダイヤルの有効・無効〉：SET13	
スケルチをオフにするには	38
（スケルチオフ）	
スケルチを RF のレベルでコントロールするには	39
（RF スケルチ）の設定：SET17	
送信出力を変えるには	40

メモリー機能を使うには	41
メモリー機能について	42
メモリーするには	42
メモリーを呼び出すには	43
メモリーを消去するには	43
メモリーを変更するには	43
メモリーに優先順位をつけるには	44
(メモリープライオリティー)	
メモリー周波数にトーンスケルチモードを書き込むには	44
メモリー周波数にトーンエンコードモードを書き込むには	45
メモリーのトーン周波数を書き換えるには	45
メモリー周波数にページングモードを書き込むには	46
メモリー周波数にコードスケルチモードを書き込むには	46
メモリー周波数にレピータモードを書き込むには	47
メモリー周波数にスキャン方法を書き込むには	47
メモリーされているレピータのシフト周波数を書き換えるには	48
メモリーを変更できないようにするには: SET16	48
(メモリープロテクト)	
スキャン機能を使うには	49
スキャン機能について	50
スキャンする前の準備	51
1 MHz内でスキャンするには	52
(1 MHzスキャン)	
バンドの全域をスキャンするには	52
(オールスキャン)	
指定した範囲をスキャンするには	52
(プログラムスキャン)	
メモリー周波数をスキャンするには	53
(メモリースキャン)	
優先順位をつけられたメモリーをスキャンするには	53
(プライオリティースキャン)	
メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには	53
(ブロックメモリースキャン)	
トーンスケルチ状態でスキャンするには	54
スキャンする速さを変えるには: SET01	54
スキャン方法を選択するには	54
(ポーズスキャン/ビジースキャン/ホールドスキャンの選択): SET02, 03	
ホールドスキャンの待ち時間を変更するには: SET04	54

レピータを使うには	55
レピータ運用について	56
オートレピータモード	57
手動でレピータモードを設定するには	57
送信周波数を受信周波数より高い方向にシフトするには	57
レピータ運用時に送信と受信の周波数を逆にするには (リバーズ)	57
レピータ運用のオフセット周波数を変えるには	58
レピータ運用のトーン周波数を変えるには	58
オートレピータモードを解除するには : SET14	58
こんな使いかたもできます	59
使わないバンド (周波数帯) を消すには (バンドオフ)	60
ディスプレイを同じバンド (周波数帯) にするには (V-V, U-U)	60
VFOの周波数を同時に変えるには (VFOリンク)	60
間違って送信しないためには (PTT ロック) : SET15	60
送信の自動停止を設定するには : SET19	61
サブバンドの音声出力を小さくするには (サブバンドミュート)	61
音声のミュートレベルを変えるには	61
<ミュートダウン音量 -6dB, -12dB, -18dB>: SET18	
本体のスピーカーからの音を止めるには : SET05	61
マイクのスピーカーからの音を止めるには : SET06	62
ビーブ音の大きさを変えるには : SET00	62
設定を初めの状態に戻すには	62
(リセット)	
すべての設定を初めの状態に戻すには (オールリセット)	
メモリー以外の設定を初めの状態に戻すには (ノーマルリセット)	
メモリーの内容を消すには (メモリーリセット)	
セットモード機能の一覧	63

別売り品を使って	65
トーンスケルチユニット (CTN5700) を使って	66
トーンエンコーダーを使うには	67
トーンスケルチを使うには	67
トーン信号の周波数を変えるには	67
タッチトーンユニット (CTD5700) を使って	68
自分の個別コードを設定するには	69
話したい相手のページング・コードスケルチのコードを決めるには	69
グループコードを設定するには	70
ページングを使うには	70
ページング信号が出るまでの時間を変えるには : SET09	71
アラームの回数を変えるには : SET10	71
コードスケルチを使うには	71
DTMF を使うには	72
DTMF コードをメモリーするには	72
DTMF コードを書き換えるには	73
メモリーした DTMF コードを確認するには	74
メモリーした DTMF コードを消去するには	74
メモリーした DTMF コードを送出するには	75
DTMF コードの送出スピードを変更するには : SET08	75
DTMF をシングルトーンに変えるには : SET11	75
別売りケーブル (CAW570~CAW575) を使って	76
ご参考に	77
故障とお考えになる前に	78
オプション（別売り品）の紹介	79
アフターサービスについて	79
定 格	80
運用にあたって	81
申請書の書きかた	82
送信機系統図	83
さくいん	84

はじめに

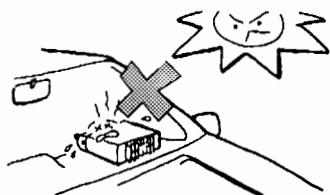
はじめに

ご使用上の注意

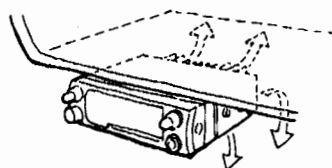
設置場所

本機の設置場所として、次の点に注意してください。

1. 高温、多湿、ホコリの多い場所はさけてください。特に、日光が直接あたる場所は避け、風通しのよい乾燥した場所に設置してください。



2. 放熱部の冷却効果を下げないため、背面および底面には充分スペースをとってください。長時間使用すると、無線機本体が温かくなりますが使用上支障はありません。

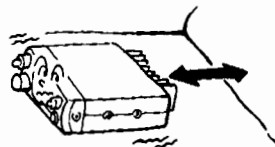


取り付け場所

1. 本機の取り付け場所は、ダッシュボードの下、コンソールボックスの横および計器類の下などをおすすめします。



2. 本機の背面が直接自動車のシートに触れないようにしてください。また、なるべく振動を受けない場所や状態でご使用ください。

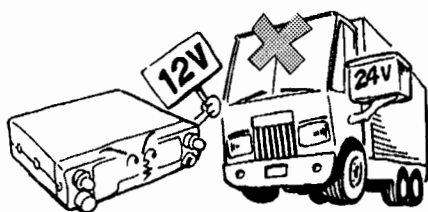


注意 次のような場所への取り付けはさけてください。

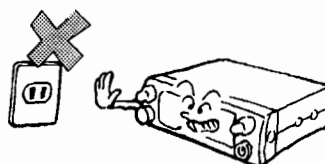
- ・ヒーターやクーラーの吹き出し口近く
- ・日光が直接あたる場所
- ・振動の多い場所
- ・自動車本体の電子回路の近く
- ・安全運転に支障が出る場所

電源について

1. 本機は DC12V仕様車用です。大型車など 24V系のバッテリーには使用できません。



2. 絶対に AC(交流)100Vに接続しないでください。本機が故障します。



ご使用前の準備

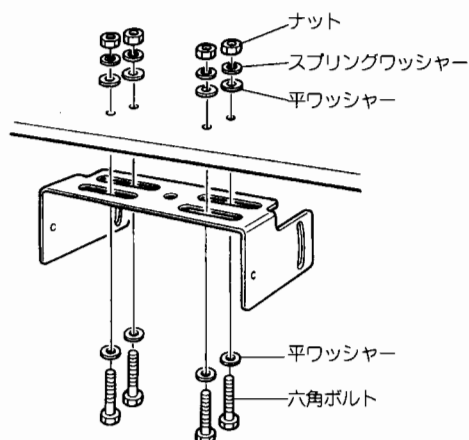
車に取り付けるには	8
無線機の取り付けかた	8
コントロールヘッドの取りはずしかた	9
メモリーユニットの交換のしかた	9
電源ケーブルを接続するには.....	10
アンテナを取り付けるには.....	11
固定局で使うには	12
無線機の設置方法	12
アンテナを取り付けるには	12

無線機の取り付けかた

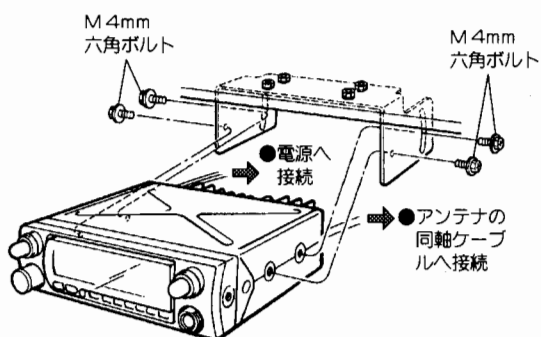
ブラケットを取り付けるには

ブラケットはしっかり固定される場所を選んで取り付けてください。

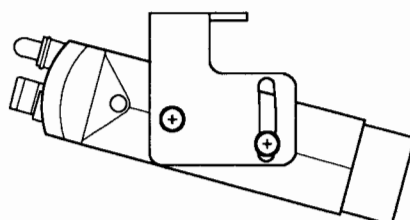
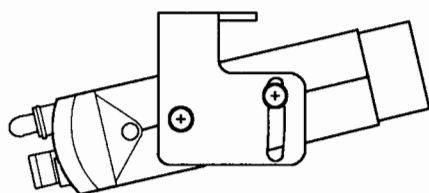
また、付属のボルト、ビスを使用し固定してください。



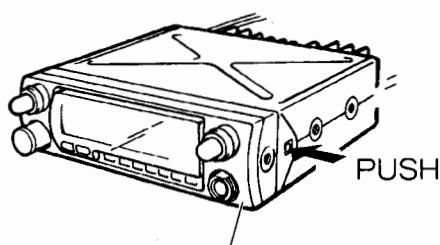
- 1 M 5 mm の六角ボルトを使用するときは、
Φ 5.2~5.5 mm の穴を開ける
M 5 mm のタッピングビスを使用するときは、
Φ 4.0~4.3 mm の穴を開ける
- 2 M 5 mm の六角ボルトを使用するときは、六角ボルトに平ワッシャーを通す
次に、内装側より平ワッシャー、スプリングワッシャー、ナットを通して固定する
M 5 mm のタッピングビスを使用するときは、タッピングビスに平ワッシャーを通し、ネジ込む



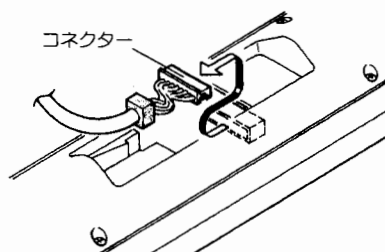
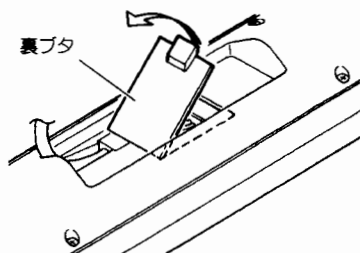
- 3 本機の後面パネルから出ている、同軸ケーブルをアンテナの同軸ケーブルへ接続する
電源ケーブルを電源へ接続する
- 4 本機をブラケットに入れ、M 4 mm のボルトで固定する



コントロールヘッドの取りはずしかた



コントロールヘッド



1 本体側面のリリースボタンを押しながら手前に引く
コントロールヘッドがはずれる

2 コントロールヘッドの裏フタを開く

3 ケーブルのコネクターをはずす

● 逆の手順でセパレートケーブルのコネクターを極性を合わせて取り付け、フタを閉めます。

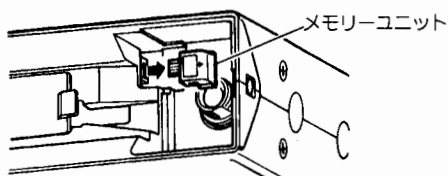


◆ C5710/C5710Dにはコントロールヘッドは付属されていません。したがって別売りのコントロールヘッド **CRC5700** をお買い求めの際には、逆の手順で取り付けを行ってください。

◆ 本体側のセパレートケーブルのコネクターも同様の手順で取りはずすことができます。

メモリーユニットの交換のしかた

本体には、メモリーユニット (CMU181) が付属されています。
このメモリーユニットは他のメモリーユニット (CMU181/CMU182) に交換できます。
メモリーユニットは本体前面部の図の位置にあります。



- 1 電源を切る
- 2 コントロールヘッドを取りはずす
- 3 本体に付属されているメモリーユニットを抜く
- 4 交換するメモリーユニットを差し込む



◆ CMU181 は VHF 帯、UHF 帯で各 20 ch メモリーできます。

◆ CMU182 は VHF 帯、UHF 帯で各 100 ch メモリーできます。



◆ 電源が入っているときに、メモリーユニットの抜き差しは行わないでください。

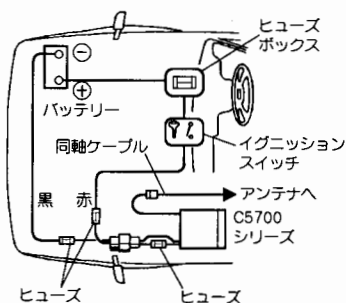
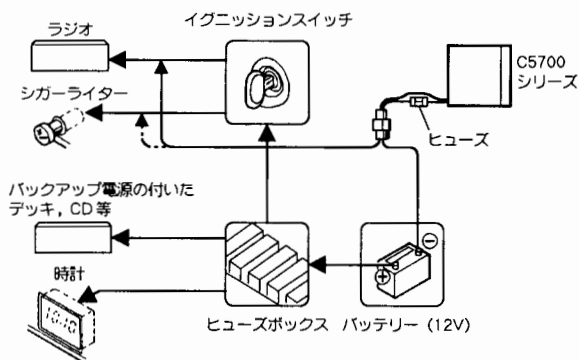
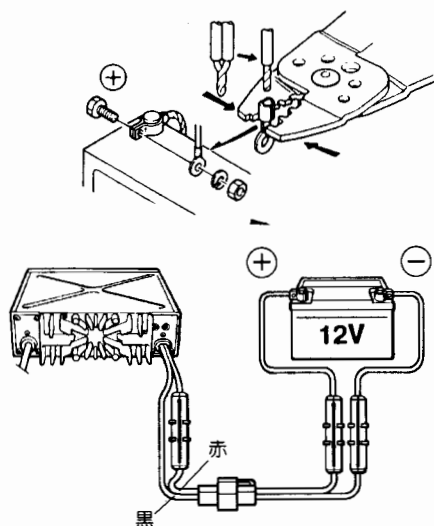
◆ オプションでお買い上げになったメモリーユニットを初めてお使いになる前に、必ずオールリセットを行ってください (P. 62)。

電源ケーブルを接続するには

本機への電源供給は、自動車のバッテリーより行います。

自動車のバッテリーと本機の接続は、付属の電源コードを使用してください。

使用前の準備



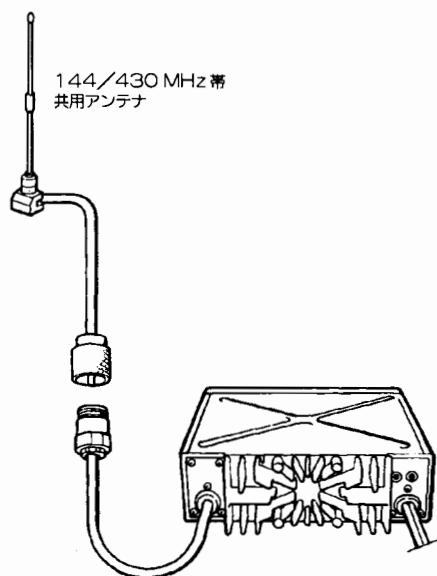
- 1 作業を行う前にバッテリーの⊖ 端子をはずす(ショートを防止するために必ず行ってください。)
- 2 バッテリー端子がゆるまないようにスパナ等でしっかり締め付ける
- 3 ⊕ 側の作業完了後、⊖ 側の端子をもと通りしっかり締め付ける
- 4 本機の電源コネクターと電源ケーブルのコネクターを接続する
イグニッションスイッチと連動させる場合の、電源用赤コードは、車のイグニッションキーを通った後の 12V ⊕ 端子に接続する
黒コードは、12V ⊖ 端子に接続する



- ◆本機を 24 V 仕様車で使用の場合は、24 V を 12 V に変換する DC-DC コンバータを必ずご使用ください。
- ◆車を長時間使用しないときは、電源コードをはずしてください。
- ◆C5700、C5710、C5720 のヒューズは必ず 5 A 定格のものを使用してください。
C5700D、C5710D、C5720D のヒューズは必ず 12 A 定格のものを使用してください。

アンテナを取り付けるには

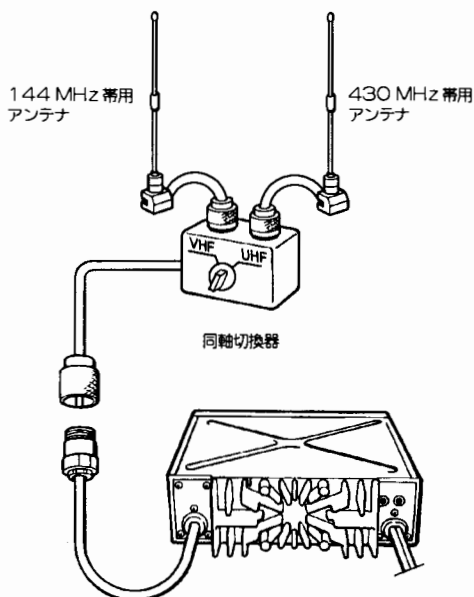
無線機の送信および受信の性能は、アンテナの種類や特性に大きく左右されます。運用目的や設置条件に合ったアンテナを選んでください。



共用アンテナを使用する場合

本機はデュプレクサーを内蔵しています。したがって、144/430 MHz 帯共用アンテナを接続して使用できます。

- 1 本機の同軸ケーブルのコネクターとアンテナの同軸ケーブルコネクターを接続する



独立したアンテナを使用する場合

- 1 本機の同軸ケーブルに同軸切換器等を接続する
- 2 同軸切換器の 144 MHz 帯用同軸に 144 MHz 帯アンテナを接続する
次に、430 MHz 帯用同軸に 430 MHz 帯アンテナを接続する

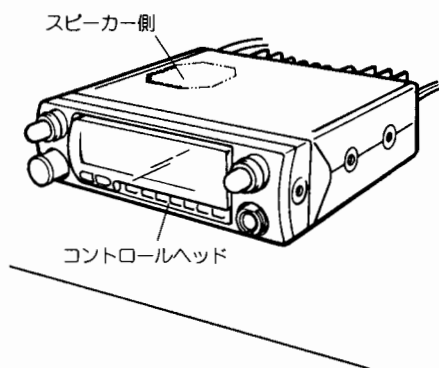


◆同軸ケーブルは、傷をつけたり、押しつぶしたりしないようにしてください。

◆アンテナの VSWR は 1.5 以下になるように調整してください。

◆アンテナ基台を取り付けるときは、アンテナ基台と車体のアースが完全にとれるようにしてください。

無線機の設置方法



本機を固定局として使用するときは、DC 安定化電源を使用してください。

DC 安定化電源は、以下のものを使用してください。

C5700, C5710, C5720	DC 出力 13.8 V
	出力電流 4.5 A 以上
C5700D, C5710D, C5720D	DC 出力 13.8 V
	出力電流 12.0 A 以上

固定局として使うときは、内蔵スピーカーが上になるようにコントロールヘッドを上下逆に取り付けることができます。

アンテナを取り付けるには

垂直型アンテナ等を使用する場合は、同軸ケーブルをアンテナの直下でループ(たるみ)を作り、アンテナ自体に同軸ケーブルの自重が加わらないようにしてください。

またコネクタの雨よけや、ケーブルの固定方法については、アンテナの取扱説明書をご参照ください。

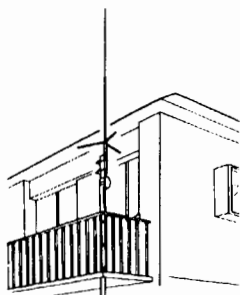
家屋の上に設置するときの一例を示しましたが、詳しくは販売店あるいは当社営業所、サービスセンターにご相談ください。

接続部の防水対策は、自己融着テープを引っぱりながら2重に巻き、その上を再度ビニールテープ等で巻いてください。

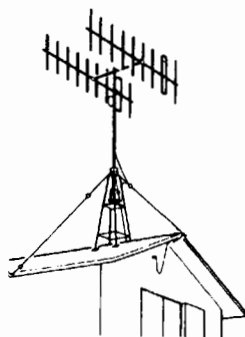


◆アンテナが倒れたり、強風で飛ばされたときなど周囲の人家に危害を加えないよう、支線の張りかたなどに十分配慮してください。

◆同軸ケーブルは、できるだけ最短距離で配線してください。



GP (グラウンドプレーン) アンテナ
(ベランダに取り付けたとき)



(八木アンテナ)
(屋根に取り付けたとき)

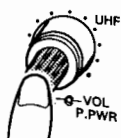
使いかたの基本を知ろう

電源を入れるには	14
音量を調整するには	15
スケルチを調整するには	16
バンド（周波数帯）を選択するには	17
受信するには（周波数を合わせるには）	18
送信するには	19
その他の基本的な使いかたについて	20
ディスプレイの照明を暗くするには	20
フルリモコンマイクのリモコン操作について	20
各部の名称と動作	21

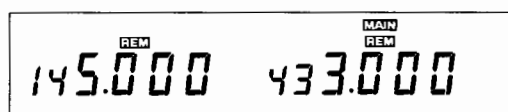
電源を入れるには

コントロールヘッドでは

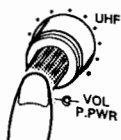
- 1 **P.PWR** を押す



- 2 ディスプレーに表示が点灯するのを確認する



- 3 電源を切るには、もう一度 **P.PWR** を押す



フルリモコンマイクでは

- 1 **PWR** を押す



- 2 ディスプレーに表示が点灯するのを確認する



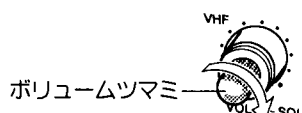
- 3 電源を切るには、もう一度 **PWR** を押す



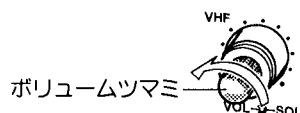
音量を調整するには

コントロールヘッドでは、

音量を大きくするには、
[VOL] ツマミを時計方向に回す



音量を小さくするには、
[VOL] ツマミを反時計方向に回す



◆フルリモコンマイクで、ディスプレイのV表示が点滅していないときは、[A/VO-SQ]キーを押してください。

◆コントロールヘッドとフルリモコンマイクを一緒に使うときにフルリモコンマイクで音量を調整するには、コントロールヘッドの[VOL]ツマミを反時計方向に回し⑧の位置に合わせてください。コントロールヘッドの表示部に[REM]が表示されます(P 20)。このとき、スケルチの調整もフルリモコンマイクで行ってください(P 16)。

◆音量を調整するときはスケルチオフ状態で調整すると音量の変化がわかります(P 38)。



◆フルリモコンマイク (CMP843) が接続されていないときに、[VOL]ツマミを⑧の位置にするとスケルチのコントロールもできなくなります。

フルリモコンマイクでは、

1 [A/VO-SQ] キーを押す



2 ディスプレーにV表示が点滅していることを確認する



音量を大きくするには

[3/UP] キーを押す

キーを押し続けると、音量も大きくなります。



音量を小さくするには

[A/VO-SQ] キーを押す

ディスプレイにVが表示されていることを確認する

[2/DOWN] キーを押す

キーを押し続けると、音量も小さくなります。



使いかたの基本を知ろう

スケルチを調整するには

スケルチについて

信号を受けていないときは、「ザー」という音がでます。この音を消すのがスケルチです。

コントロールヘッドでは、

[SQL] ツマミをゆっくり時計方向に回す
「ザー」という音が消える位置で、ツマミ
をとめる



反時計方向に回すと、再び「ザー」という
音が出ます



フルリモコンマイクでは、

1 **[AVO-SQ]** キーを2回押す



2 ディスプレーのSQ表示が点滅している
ことを確認する



3 **[3/UP]** キーを押し続ける
「ザー」という音が消える位置で、キーを
放す



4 **[2/DOWN]** キーを押し続けると再び
「ザー」という音が出ます



◆フルリモコンマイクで、ディスプレイのSQ表示が点滅していないときは、**[AVO-SQ]** キーを押してください。

◆スケルチのレベルを大きくすると、弱い信号を受けられないことがあります。

◆「ザー」という音が出ている状態をスケルチオフといいます。スケルチの操作により「ザー」という音が出ない状態をスケルチオンといいます。キーの操作でスケルチオフにすることができます(P 38)。

◆コントロールヘッドとフルリモコンマイクを一緒に使うときにフルリモコンマイクでスケルチを調整するには、コントロールヘッドの**[VOL]** ツマミを反時計方向に回し、**[R]** 位置に合わせてください。コントロールヘッドの表示部に**[REM]**が表示されます(P 20)。このとき、音量の調整もフルリモコンマイクで行ってください(P 15)。

バンド(周波数帯)を選択するには

VHFとUHFのバンドの切り換えを行うことができます。

コントロールヘッドでは

VHFバンドを選択するには

144 キーを押す



ディスプレイに **MAIN** が表示されていることを確認する



フルリモコンマイクでは

VHFバンドを選択するには

D/BAND キーを押す



ディスプレイに **MAIN** が表示されていることを確認する



UHFバンドを選択するには

430 キーを押す



ディスプレイに **MAIN** が表示されていることを確認する



UHFバンドを選択するには

D/BAND キーを押す



ディスプレイに **MAIN** が表示されていることを確認する

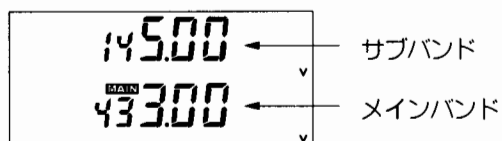
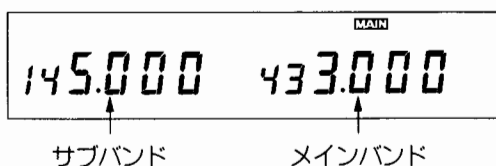


使いかたの基本を知ろう



◆このとき選択したバンドをメインバンドと呼びます。

選択しなかったバンドをサブバンドと呼びます。

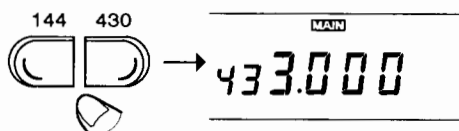


受信するには(周波数を合わせるには)

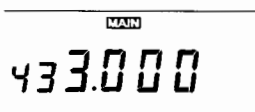
話したい相手に周波数を合わせ、相手が送信すると受信できます。

コントロールヘッドでは、

- 1 **144** キーまたは **430** キーでバンドを選ぶ



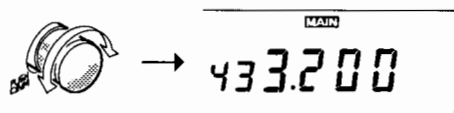
- 2 VFO 状態を確認める



- 3 メインダイヤルを回し、話したい相手に周波数を合わせる

メインダイヤルを時計方向に回すと、周波数は高くなる

メインダイヤルを反時計方向に回すと、周波数は低くなる

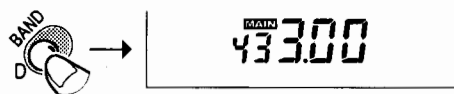


- 4 話したい相手が送信するのを待つ



フルリモコンマイクでは、

- 1 **D/BAND** キーでバンドを選ぶ



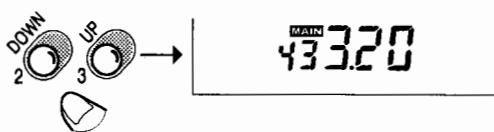
- 2 VFO 状態を確認める



- 3 **2/DOWN** キーまたは **3/UP** キーを押し、話したい相手に周波数を合わせる

2/DOWN キー押すと、周波数は低くなる

3/UP キー押すと、周波数は高くなる



- 4 話したい相手が送信するのを待つ



◆VFO 状態とは、メインダイヤル、**2/DOWN**/**3/UP** キーまたはテンキーで周波数を変えることができる状態です。

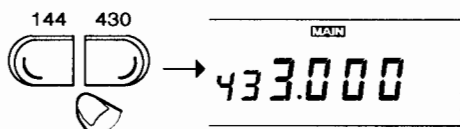
◆フルリモコンマイクでは、1 MHz 台および 100 MHz 台から周波数をテンキーで入力することができます(ダイレクト入力 **D 32**)。

送信するには

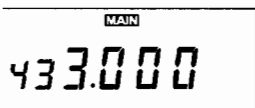
周波数を合わせた相手と、送信することで話ができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 **144**キーまたは**430**キーでバンドを選ぶ



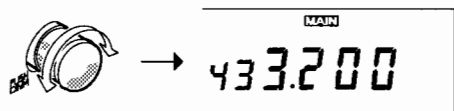
- 2 VFO 状態を確認める



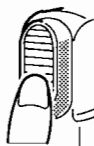
- 3 メインダイヤルを回し、話したい相手に周波数を合わせる

メインダイヤルを時計方向に回すと、周波数は高くなる

メインダイヤルを反時計方向に回すと、周波数は低くなる



- 4 **PTT**を押しながら、マイクに向かって話す



フルリモコンマイクでは、

- 1 **D/BAND** キーでバンドを選ぶ



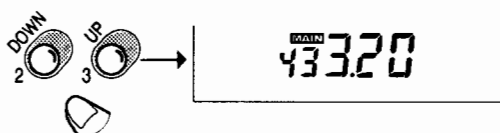
- 2 VFO 状態を確認める



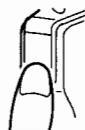
- 3 **2/DOWN**キーまたは**3/UP**キーを押し、話したい相手に周波数を合わせる

2/DOWNキーを押すと、周波数は低くなる

3/UPキーを押すと、周波数は高くなる



- 4 **PTT**を押しながら、マイクに向かって話す



使いかたの基本を知ろう



◆送信する前には、送信しようとする周波数で他の人が送信していないことを確かめてください。

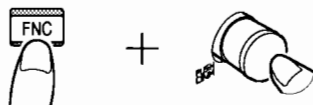


◆フルリモコンマイクでは、1 MHz 台および 100 MHz 台から周波数をテンキーで入力することができます(ダイレクト入力 **P** 32)。

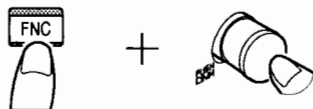
その他の基本的な使いかたについて

ディスプレイの照明を 暗くするには（ディマー） コントロールヘッドでは、

- 1 **FNC**キーを押しながら、メインダイヤルを押す



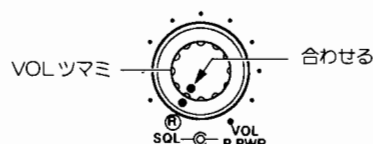
- 2 もとの状態に戻すには、**FNC**キーを押しながら、メインダイヤルを押す



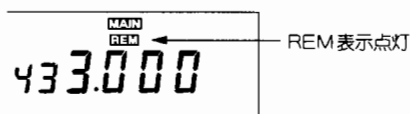
コントロールヘッドとフルリモコンマイクを一緒に使うとき、音量とスケルチをフルリモコンマイクで調整できます。

フルリモコンマイクの リモコン操作について

- 1 コントロールヘッドの**VOL**ツマミをⓇの位置に合わせる

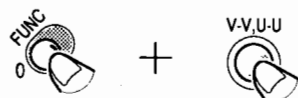


- 2 コントロールヘッドの表示部に**REM**が表示されるのを確認する

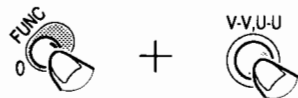


フルリモコンマイクでは、

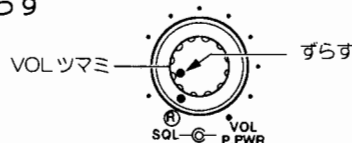
- 1 **0/FUNC**キーを押しながら、**V-V,U-U**キーを押す



- 2 もとの状態に戻すには**0/FUNC**キーを押しながら、**V-V,U-U**キーを押す



- 3 この動作を解除するにはコントロールヘッドの**VOL**ツマミをⓇの位置よりずらす

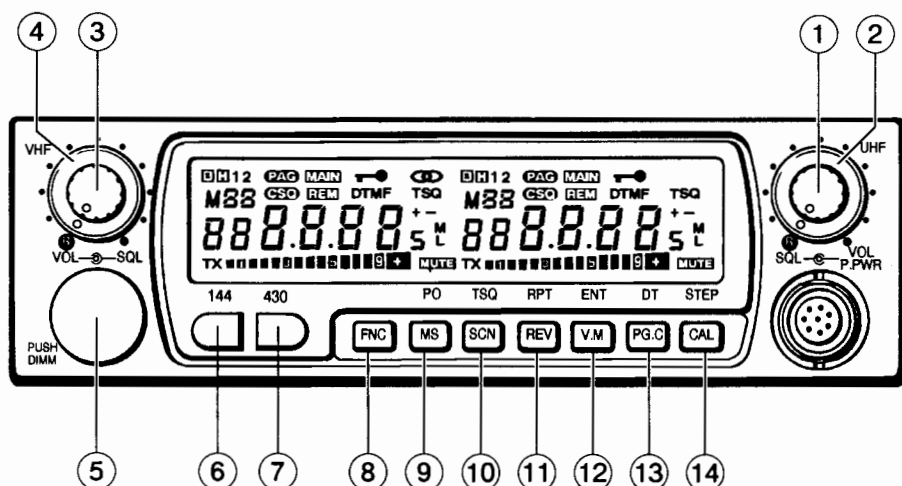


- 4 コントロールヘッドの表示部の**REM**が消えることを確認する



各部の名称と動作

コントロールヘッドの各部の名称と主な動作は次のようになります。



① VOL /P.PWR (430 MHz 帯用)

- このつまみを押すと電源が入ります。
- このつまみを回し 430 MHz 帯の音量を調整します。
- フルリモコンマイクを接続しているとき、**④**の位置に合わせるとフルリモコンマイクで 430 MHz 帯の音量とスケルチの調整ができます。

② SQL (430 MHz 帯用)

- このつまみを回し 430 MHz 帯のスケルチを調整します。
- 時計方向(↻)に回しきった位置に合わせると RF スケルチ動作になります。

③ VOL (144 MHz 帯用)

- このつまみを回し 144 MHz 帯の音量を調整します。
- フルリモコンマイクを接続しているとき、**④**の位置に合わせるとフルリモコンマイクで 144 MHz 帯の音量とスケルチの調整ができます。

④ SQL (144 MHz 帯用)

- このつまみを回し 144 MHz 帯のスケルチを調整します。
- 時計方向(↻)に回しきった位置に合わせると RF スケルチ動作になります。

⑤ メインダイヤルつまみ/ DIMM

- このつまみを回すと、周波数を変更することができます。
- 各種の設定を行うときに、設定を変更することができます。
- [FNC]**キーを押しながらメインダイヤルを押すと、ディスプレイの照明が暗くなります(デイマー)。

⑥ 144

- このキーを押すと、144 MHz 帯がメインバンドになります。
このときディスプレイの 144 MHz 帯側に MAIN が表示されます。
- [FNC]**キーを押しながらこのキーを押すと、144 MHz 帯側が OFF になります。
- メインバンドのときこのキーを押し続けると、430 MHz 帯の周波数になります(U-U)。

使いかたの基本を知ろう

⑦ 430

- このキーを押すと、430 MHz帯がメインバンドになります。

このときディスプレイの430 MHz帯側にMAINが表示されます。

- [FNC]**キーを押しながらこのキーを押すと、430 MHz帯側がOFFになります。
- メインバンドのときこのキーを押し続けると、144 MHz帯の周波数になります(V-V)。

⑧ FNC

- このキーを押すとファンクションモードになります。

このとき各機能キーの上部の文字が約3秒間赤く点灯します。

本書では、ファンクションモードのときは**[F]**で表しています。

⑨ MS/PO

- このキーを押すと、メモリーをスキャンします。
- このキーを押し続けると、メモリーのスキャン方法を変更する状態になります。
- [FNC]**キーを押した後に、このキーを押すと送信出力を変えることができます。
- [FNC]**キーを押しながら、このキーを押すとサブバンドの音声ミュートをすることができます。

⑩ SCN/TSQ

- このキーを押すと、1 MHzスキャンまたは、オールスキャンをします。
- [FNC]**キーを押した後に、このキーを押すとトーンエンコードモードになります。
- トーンエンコードモードで**[FNC]**キーを押した後にこのキーを押すと、トーンスケルチモードになります。
- [FNC]**キーを押した後に、このキーを押し続けるとトーン周波数を変更する状態になります。
- [FNC]**キーを押しながら、このキーを押すとプログラムスキャンができます。
- 1 MHzまたはオールスキャン中に**[FNC]**キーを押しながら、このキーを押し続けると1MHzスキャン/オールスキャンの切り換えができます。

⑪ REV/RPT

- このキーを押すと、レピータ運用時に送・受信の周波数をリバースできます。
- [FNC]**キーを押した後に、このキーを押すとレピータ運用になります。
- [FNC]**キーを押しながら、このキーを押すとシフト方向が設定できます。
- [FNC]**キーを押しながら、このキーを押し続けると左側VFOと右側VFOをリンクすることができます(VFOリンク)。

⑫ V.M/ENT

- このキーを押すと、メモリーを呼び出せます。メモリー運用時には、VFO状態に戻ります。
- [FNC]**キーを押した後に、このキーを押すとメモリー等の書き込みを設定します。
- [FNC]**キーを押しながら、このキーを押すとセットモードを変更する状態になります。

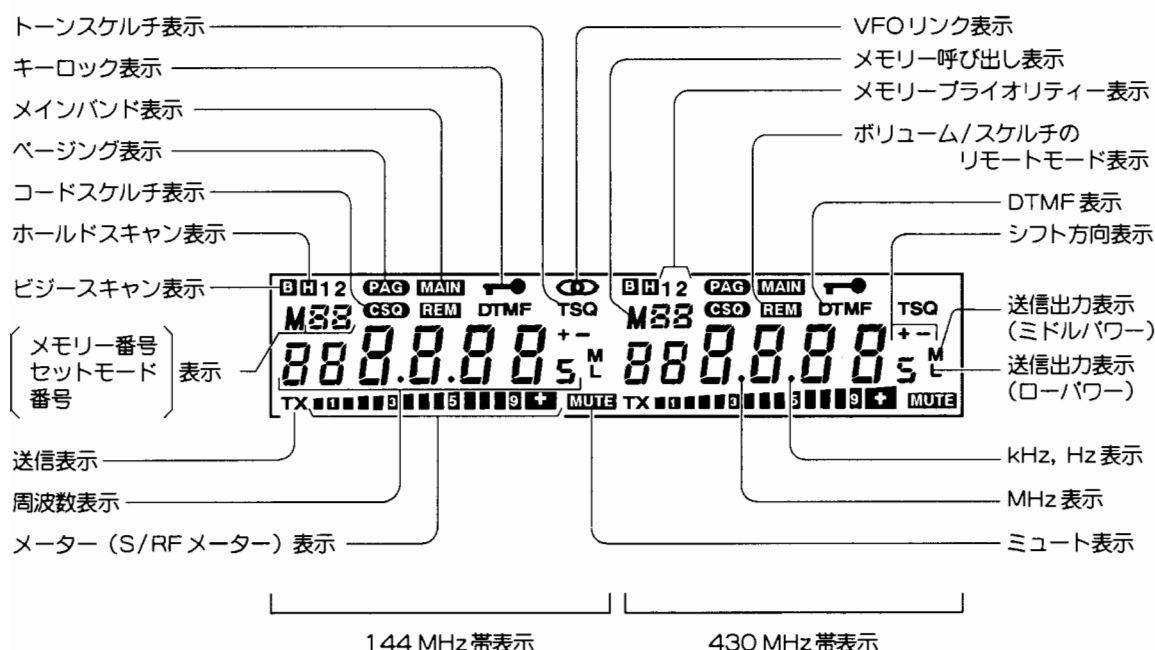
⑬ PG.C/DT

- このキーを押すと、ページングモードになります。
- ページングモードで、このキーを押すとコードスケルチモードになります。
- このキーを押し続けると、ページングコードを変更する状態になります。
- [FNC]**キーを押した後に、このキーを押すとDTMFモードになります。
- [FNC]**キーを押した後に、このキーを押し続けるとDTMFコードを変更する状態になります。
- [FNC]**キーを押しながら、このキーを押すとキーロック状態になります。

⑭ CAL/STEP

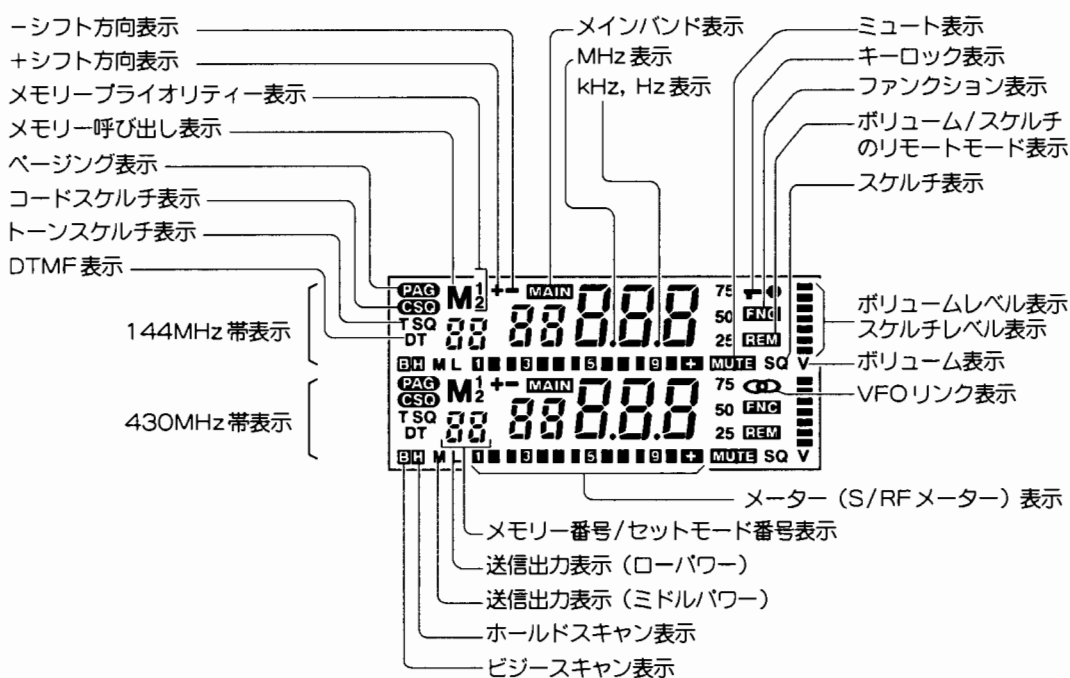
- このキーを押すと、コール周波数になります。コール周波数では、VFO状態に戻ります。
- [FNC]**キーを押した後に、このキーを押すとステップ周波数を変更する状態になります。
- [FNC]**キーを押しながら、このキーを押すとシフト周波数を変更する状態になります。

コントロールヘッド表示部（ディスプレイ）



使いかたの基本を知ろう

フルリモコンマイク表示部（ディスプレイ）

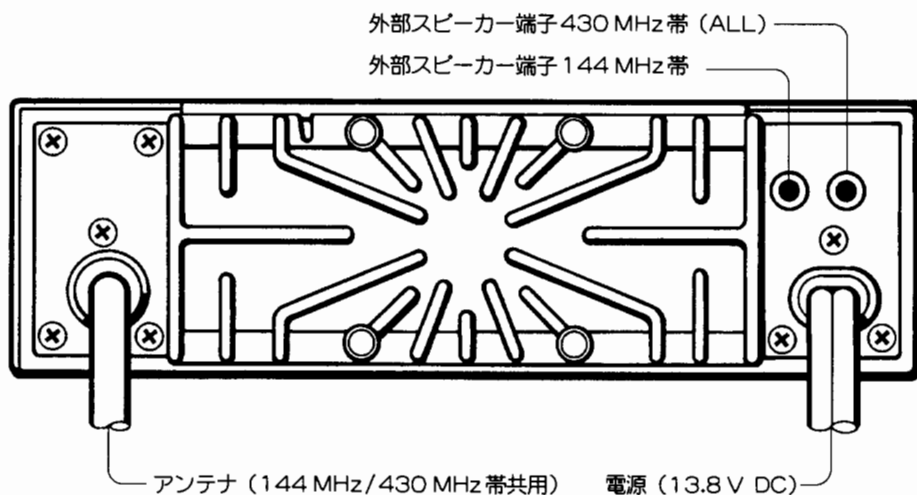


本体前面/後面部

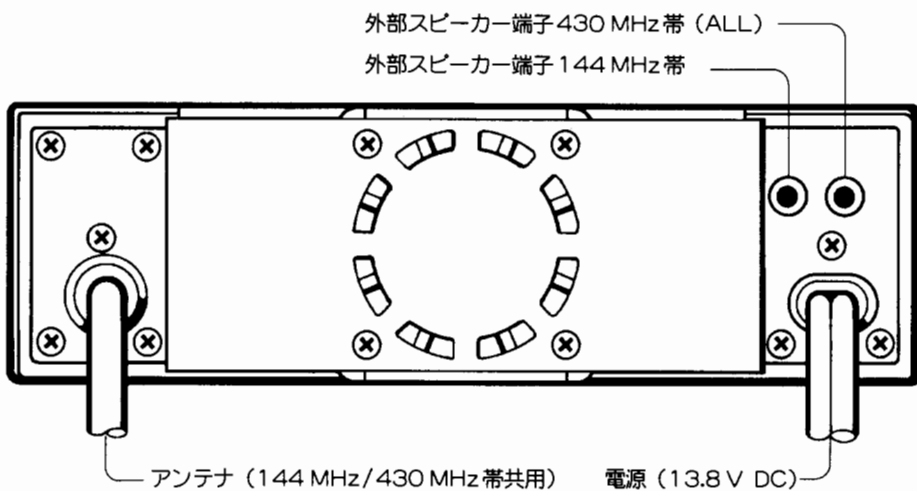
(C5710)



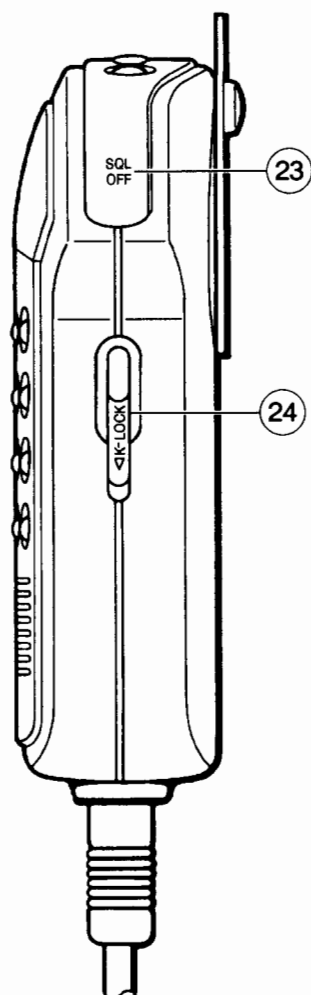
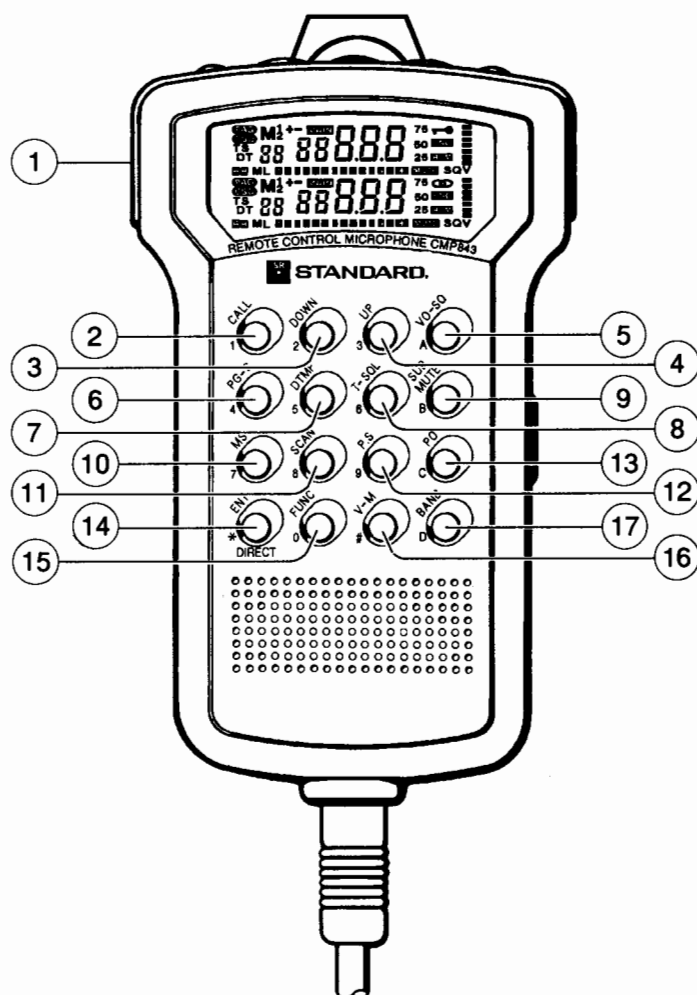
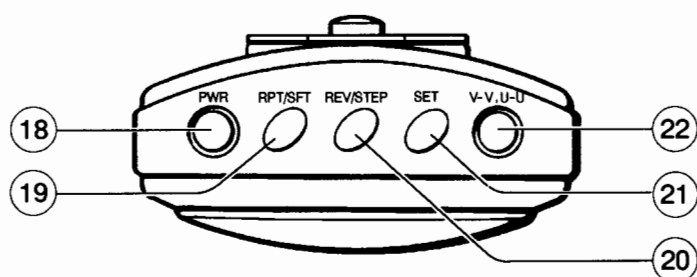
(C5700, C5710, C5720)



(C5700D, C5710D, C5720D)



フルリモコンマイクの各部の名称と主な動作は次のようになります。



使いかたの基本を知ろう

① PTT

- このスイッチを押すとメインバンドで送信します。

② 1/CALL

- このキーを押すと、コール(呼び出し)周波数になります。
- ダイレクトモードで、このキーを押すと1が入力されます。
- PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号1が送出されます。

③ 2/DOWN

- このキーを押すと、周波数、アドレス番号等がダウンします。
- ダイレクトモードで、このキーを押すと2が入力されます。
- PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号2が送出されます。

④ 3/UP

- このキーを押すと、周波数、アドレス番号等がアップします。
- ダイレクトモードで、このキーを押すと3が入力されます。
- PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号3が送出されます。

⑤ A/VO-SQ

- REMモードで、このキーを押すと音量またはスケルチの設定状態になります。
- PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号Aが送出されます。

⑥ 4/PG-C

- このキーを1回押すと、ページングモードになります。
- ページングモードでこのキーを押すと、コードスケルチモードになります。
- このキーを押し続けると、ページングコードを設定する状態になります。
- ダイレクトモードで、このキーを押すと4が入力されます。
- PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号4が送出されます。

⑦ 5/DTMF

- このキーを押すと、DTMFモードになります。
- このキーを押し続けると、DTMFコードを設定する状態になります。
- ダイレクトモードで、このキーを押すと5が入力されます。
- PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号5が送出されます。

⑧ 6/T-SQL

- このキーを押すと、トーンエンコードモードになります。
- トーンエンコードモードでこのキーを押すと、トーンスケルチモードになります。
- ダイレクトモードで、このキーを押すと6が入力されます。
- PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号6が送出されます。

⑨ B/SUB MUTE

- このキーを押すと、サブバンドの音声をミュートすることができます。
- PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号Bが送出されます。

⑩ 7/MS

- このキーを押すと、メモリーをスキャンできます。
- このキーを押し続けると、メモリーのスキャン方法を変更する状態になります。
- ダイレクトモードで、このキーを押すと7が入力されます。
- PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号7が送出されます。

⑪ 8/SCAN

- このキーを押すと、1 MHz スキャンまたはオールスキャンができます。
- 1 MHz スキャンまたはオールスキャン中に **[O/FUNC]** キーを押しながらこのキーを押し続けると、1 MHz スキャン/オールスキャンの切り換えができます。
- ダイレクトモードで、このキーを押すと8が入力されます。
- PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号8が送出されます。

⑫ 9/P.S

- このキーを押すと、プログラムスキャンができます。
- ダイレクトモードで、このキーを押すと9が入力されます。
- PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号9が送出されます。

⑬ C/PO

- このキーを押すと、送信出力を変更できます。
- PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号Cが送出されます。

⑭ * ENT・DIRECT

- このキーを押すと、ダイレクトモードになり、直接数字入力ができます。
- また、入力した数字の決定を行います。
- PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号*が送出されます。

⑮ 0/FUNC

- このキーを押すと、ファンクションモードになります。
- 本書では、ファンクションモードのときはFで表しています。
- ダイレクトモードで、このキーを押すと0が入力されます。
- PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号0が送出されます。

⑯ #/V-M

- このキーを押すと、VFO状態とメモリー状態の切り換えができます。
- PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号#が送出されます。

⑰ D/BAND

- このキーを押すと、メインバンドの切り換えができます。
- [0/FUNC]キーを押しながら、このキーを押すとサブバンドがOFFになります。
- PTTを押しながら、このキーを押すとDTMF信号Dが送出されます。

⑱ PWR

- このキーを押すと、電源が入ります。

⑲ RPT/SHIFT

- このキーを押すと、レピータモードになります。
- このキーを押し続けると、レピータのシフト周波数を変更できる状態になります。
- [0/FUNC]キーを押した後に、このキーを押すとシフト方向の変更ができます。
- [0/FUNC]キーを押しながら、このキーを押すと144 MHz帯と430 MHz帯をリンクすることができます。

⑳ REV /STEP

- このキーを押すと、レピータ運用時に送・受信周波数をリバースできます。
- [0/FUNC]キーを押した後にこのキーを押すと、ステップ周波数を変更する状態になります。

㉑ SET

- このキーを押すと、セットモードを変更する状態になります。

㉒ V-V,U-U

- このキーを押すと、ディスプレイをすべて144 MHz帯または430 MHz帯にできます。

㉓ SQL- OFF

- このキーを押すと、スクルチを解除できます。

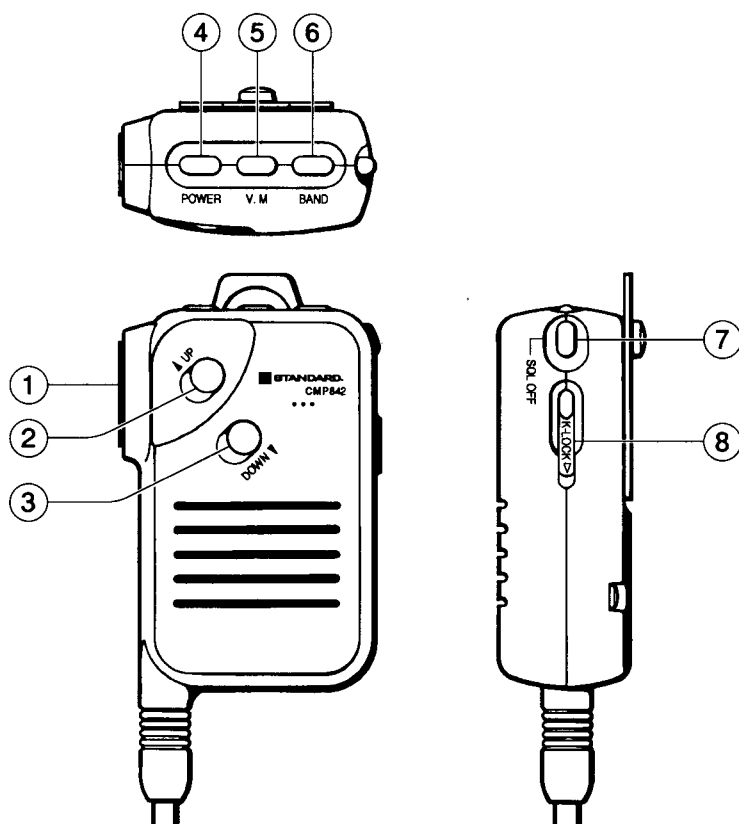
㉔ K- LOCK

- このキーを下にさげると、フルリモコンマイクでのキーの操作ができなくなります。



- ◆DTMF信号を送出する為には、別売り品のCTD5700が必要です。
- ◆CTD5700が実装されていないときは、ページング・コードスクルチ・DTMFの運用はできません。
- ◆トーンスクルチ運用をする為には、別売り品のCTN5700が必要です。

リモコンマイクの各部の名称と動作は次のようになります。



① PTT

- このスイッチを押すとメインバンドで送信します。

② ▲ UP

- このキーを押すと、周波数をアップします。

③ DOWN ▼

- このキーを押すと、周波数をダウンします。

④ POWER

- このキーを押すと、電源が入ります。

⑤ V.M

- このキーを押すと、VFO状態とメモリー状態の切り換えができます。

⑥ BAND

- このキーを押すと、メインバンドの切り換えができます。

⑦ SQL OFF

- このキーを押すと、スケルチを解除できます。

⑧ K-LOCK

- このキーを下に下げると、リモコンマイクでのキーの操作ができなくなります。

もっと自由にあつかうために

周波数ステップを変えるには	30
周波数を 1 MHz ステップで変えるには : SET12	31
周波数を直接入力するには : SET07	32
(ダイレクト入力)	
コール周波数(呼び出し周波数)を使うには	33
コール周波数を変えるには	34
コール周波数に各種設定を書き込むには	35
間違って操作するのを防ぐには	36
(キーロック)	
キーロック中にメインダイヤルツマミを働かせるには	37
〈メインダイヤルの有効・無効〉 : SET13	
スケルチをコントロールするには	
スケルチをオフにするには	38
(スケルチオフ)	
スケルチを RF のレベルでコントロールするには	39
(RF スケルチ) の設定 : SET17	
送信出力を変えるには	40

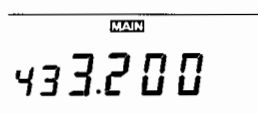
周波数ステップを変えるには

最初の設定では、コントロールヘッドのメインダイヤルツマミを回すと周波数は 20 kHz のステップで変わります。また、マイクの **[2/DOWN]** または **[3/UP]** キーを押すと周波数は 20 kHz のステップで変わります。

この周波数のステップを変えることができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 **[144]** キーまたは **[430]** キーでバンドを選ぶ



- 2 VFO 状態を確かめる

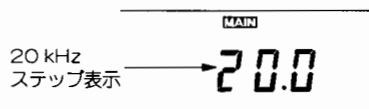
- 3 **[FNC]** キーを押す



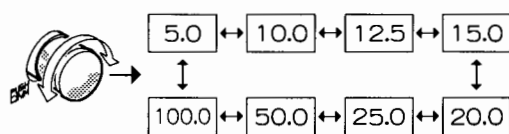
- 4 **[CAL/STEP]** キーを押す



- 5 ディスプレーにステップ周波数が表示されることを確認する



- 6 メインダイヤルを回し設定するステップ周波数にする



- 7 VFO 状態に戻すには、**[FNC]** キーを押し、**[CAL/STEP]** キーを押す

フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]** キーでバンドを選ぶ



- 2 VFO 状態を確かめる

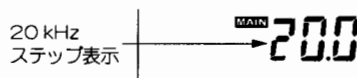
- 3 **[0/FUNC]** キーを押す



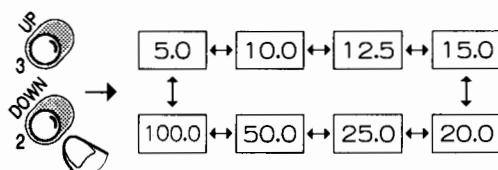
- 4 **[REV/STEP]** キーを押す



- 5 ディスプレーにステップ周波数が表示されることを確認する



- 6 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押し、設定するステップ周波数にする



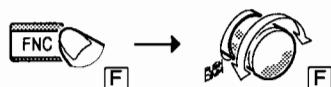
- 7 VFO 状態に戻すには、**[0/FUNC]** キーを押し、**[REV/STEP]** キーを押す

周波数を 1 MHz ステップで変えるには

周波数のステップを 1 MHz で変えることができます。

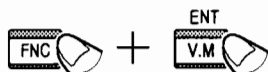
コントロールヘッドでは、

[FNC] キーを押し、メインダイヤルを回す

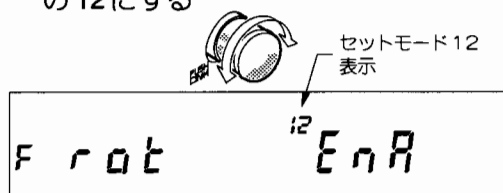


この機能は以下の手順で解除できます。

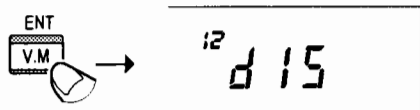
- 1 **[FNC]** キーを押しながら、**[V.M/ENT]** キーを押す



- 2 メインダイヤルを回し、セットモードの 12 にする



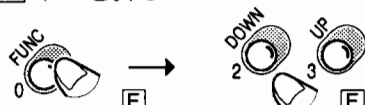
- 3 **[V.M/ENT]** キーを押し、ディスプレイの表示を EnA から diS にする



- 4 **[FNC]** キーを押しながら、**[V.M/ENT]** キーを押す、もとの表示に戻る

フルリモコンマイクでは、

[0/FUNC] キーを押し、**[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押す

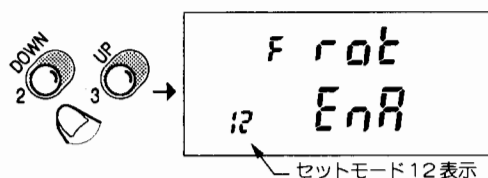


この機能は以下の手順で解除できます。

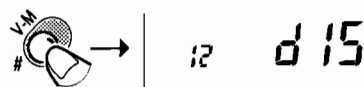
- 1 **[SET]** キーを押す



- 2 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押し、セットモードの 12 にする



- 3 **[#/V-M]** キーを押し、ディスプレイの表示を EnA から diS にする



- 4 **[SET]** キーを押す、もとの表示に戻る

もっと自由にあつかうために

周波数を直接入力するには(ダイレクト入力)

フルリモコンマイクでは、周波数を直接入力することができます。この操作をダイレクト入力と呼びます。

1 MHz 台から入力するには

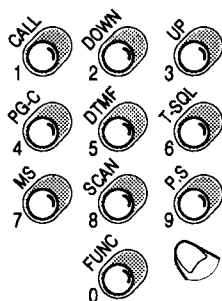
1 **[D/BAND]** キーでバンドを選ぶ

2 VFO 状態を確かめる

3 ***/ENT•DIRECT** キーを押す



4 入力する数字のキーを押す



100 MHz から入力するには

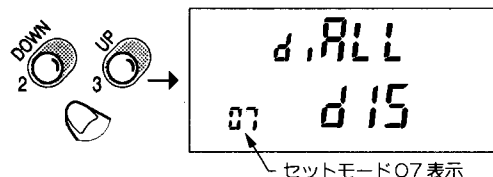
1 **[D/BAND]** キーでバンドを選ぶ

2 VFO 状態を確かめる

3 **[SET]** キーを押す



4 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押し、セットモードの 07 にする



5 **#[V•M]** キーを押し、ディスプレイの表示を d1S から EnA にする



6 **[SET]** キーを押す

7 VFO 状態に戻ったことを確かめる

8 ***/ENT•DIRECT** キーを押す

9 入力する数字のキーを押す



◆「100 MHz からの入力」を解除するには、手順の 5 でディスプレイの表示を EnA から d1S にします。

コール周波数(呼び出し周波数)を使うには

コール周波数は最初の設定(工場出荷時)は、144 MHz帯では145.00 MHz、430 MHz帯では433.00 MHzです。

コントロールヘッドでは、

- 1 **[144]**キーまたは**[430]**キーでバンドを選ぶ



- 2 VFO 状態を確かめる

- 3 **[CAL/STEP]**キーを押す



- 4 ディスプレーにCが表示され、コール周波数になったことを確認する



- 5 VFO 状態に戻すには、**[CAL/STEP]**キーを押す

フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]**キーでバンドを選ぶ



- 2 VFO 状態を確かめる

- 3 **[1/CALL]**キーを押す



- 4 ディスプレーにCが表示され、コール周波数になったことを確認する



- 5 VFO 状態に戻すには、**[1/CALL]**キーを押す

もっと自由にあつかうために



◆コール周波数になっているときに、メインダイヤルを回すか、マイクの**[UP]**または**[DOWN]**キーを押すと、コール周波数からUPまたはDOWNします。

コール周波数を変えるには

コール周波数を違う周波数に変更できます。

コントロールヘッドでは、

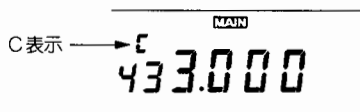
1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ

2 VFO 状態を確かめる

3 [CAL/STEP] キーを押す



4 ディスプレーにCが表示され、コール周波数になったことを確かめる



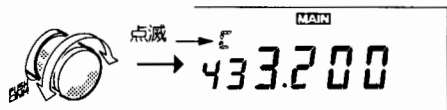
5 [FNC] キーを押す



6 [V.M/ENT] キーを押す



7 メインダイヤルを回し、変更する周波数にする (Cの表示が点滅する)



8 [FNC] キーを押す

F

9 [V.M/ENT] キーを押すと、Cの表示が点灯することを確認する

F

10 [CAL/STEP] キーを押す

11 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

1 [D/BAND] キーでバンドを選ぶ

2 VFO 状態を確かめる

3 [1/CALL] キーを押す



4 ディスプレーにCが表示され、コール周波数になったことを確認する



5 [* /ENT・DIRECT] キーを押す



6 テンキーを押し、変更する周波数をダイレクト入力する (最終桁を入力すると、書き換えは自動的に終了します。)



7 [1/CALL] キーを押す

8 VFO 状態に戻ったことを確かめる

コール周波数に各種設定を書き込むには

コール周波数に各種の設定を書き込むことができます。設定できるのは、レピータ、ページング、コードスケルチ、トーンスケルチです。

コントロールヘッドでは、

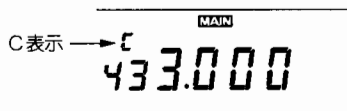
1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ

2 VFO 状態を確認める

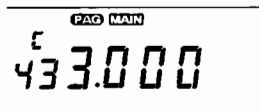
3 [CAL/STEP]キーを押す



4 ディスプレーにCが表示され、コール周波数になったことを確かめる



5 各種の設定を行うキーを押す



6 [CAL/STEP]キーを押す

7 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

1 [D/BAND]キーでバンドを選ぶ

2 VFO 状態を確認める

3 [1/CALL]キーを押す



4 ディスプレーにCが表示され、コール周波数になったことを確認する



5 各種の設定を行うキーを押す



6 [1/CALL]キーを押す

7 VFO 状態に戻ったことを確かめる

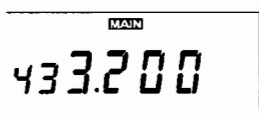
もっと自由にあつたために

間違って操作するのを防ぐには(キーロック)

キー操作をできないようにすることができます。これはキーを間違って押し、動作が変わってしまうのを防ぐためです。この操作をキーロックと呼びます。

コントロールヘッドでは、

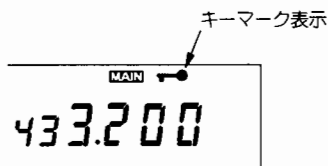
- 1 キーロックしたいバンドを **[144]** キーまたは **[430]** キーで選ぶ



- 2 **[FNC]** キーを押しながら、**[PG.C/DT]** キーを押す



- 3 ディスプレーにキーマークが表示されることを確認する



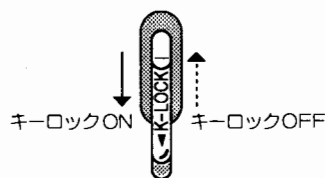
- 4 この操作を解除するには、**[FNC]** キーを押しながら、**[PG.C/DT]** キーを押す



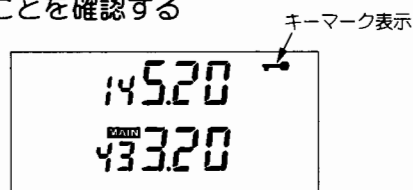
◆キーロックはコントロールヘッドの各バンドおよび、フルリモコンマイク、リモコンマイクでそれぞれ独立して設定できます。

フルリモコンマイクでは、

- 1 キーロックするには、**[K-LOCK]** スイッチを ON にする



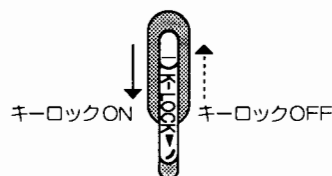
- 2 ディスプレーにキーマークが表示されることを確認する



- 3 キーロックを解除するには、**[K-LOCK]** スイッチを OFF にする

リモコンマイクでは

- 1 キーロックするには、**[K-LOCK]** スイッチを ON にする



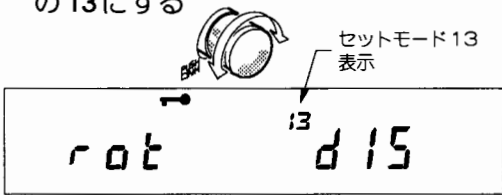
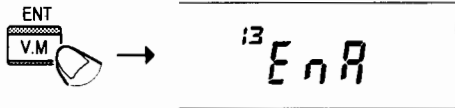
- 2 キーロックを解除するには、**[K-LOCK]** スイッチを OFF にする

キーロック中にメインダイヤルツマミを働かせるには

コントロールヘッドがキーロック中でも、メインダイヤルツマミを働かせることができます。

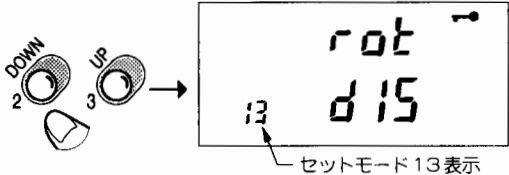
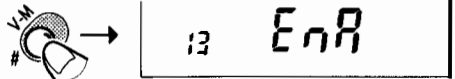
コントロールヘッドでは、

- 1 VFO 状態を確かめる
- 2 **[FNC]** キーを押しながら、**[V.M/ENT]** キーを押す

- 3 メインダイヤルを回し、セットモードの13にする

- 4 **[V.M/ENT]** キーを押し、ディスプレイの表示を dIS から EnA にする

- 5 **[FNC]** キーを押しながら、**[V.M/ENT]** キーを押す
- 6 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 VFO 状態を確かめる
- 2 **[SET]** キーを押す

- 3 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押し、セットモードの13にする

- 4 **[/V-M]** キーを押し、ディスプレイの表示を dIS から EnA にする

- 5 **[SET]** キーを押す
- 6 VFO 状態に戻ったことを確かめる

もっと自由にあつかうために



◆この設定を解除するには、手順の4でディスプレイの表示を EnA から dIS にします。

スケルチをオフにするには

スケルチが働いてると弱い信号を受けたときに、音声が出なかったり、途切れたりします。
このようなときに、スケルチを一時的にオフにできます。

リモコンマイクでは、

- 1 スケルチをオフにするには、
SQL.OFF キーを押す



- 2 再度、スケルチをオンにするには、
SQL.OFF キーを押す



フルリモコンマイクでは、

- 1 スケルチをオフにするには、
SQL.OFF キーを押す



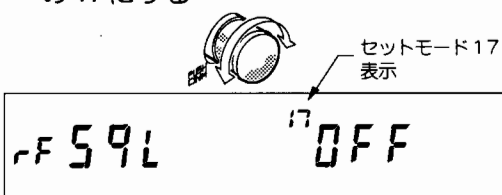
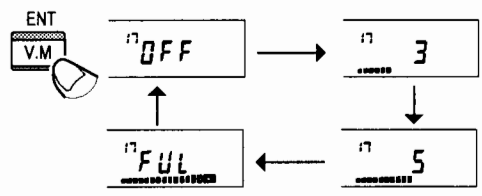
- 2 再度、スケルチをオンにするには、
SQL.OFF キーを押す



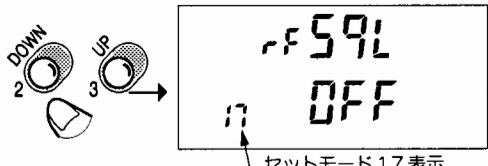
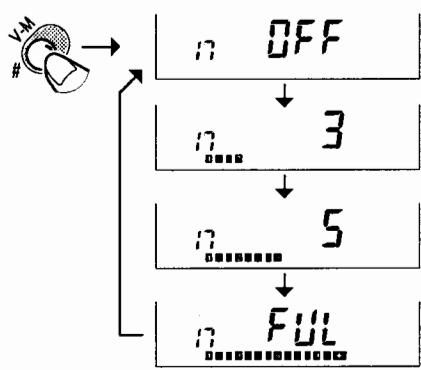
スケルチをRFのレベルでコントロールするには

RF入力信号がある一定のレベルを超えるとスケルチが開く機能があります。このスケルチが開くRFレベルを設定することができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 VFO状態を確かめる
- 2 **[FNC]** キーを押しながら、**[V.M/ENT]** キーを押す
- 3 メインダイヤルを回し、セットモードの17にする

- 4 **[V.M/ENT]** キーを押し、ディスプレイの表示をOFFから設定する値にする
[V.M/ENT] キーを押すたびに、OFF→3→5→FULの順で変わる

- 5 **[FNC]** キーを押しながら、**[V.M/ENT]** キーを押す
- 6 VFO状態に戻ったことを確かめる
 設定したいバンドのスケルチを時計方向(↻)に回しきる
 (これで手順4で設定したレベルのRFスケルチ状態になります。)

フルリモコンマイクでは、

- 1 VFO状態を確かめる
- 2 **[SET]** キーを押す
- 3 **[2/DOWN]** キーまたは**[3/UP]** キーを押し、セットモードの17にする

- 4 **[#V-M]** キーを押し、ディスプレイの表示をOFFから設定する値にする
[#V-M] キーを押すたびに、OFF→3→5→FULの順で変わる

- 5 **[SET]** キーを押す
- 6 VFO状態に戻ったことを確かめる
 設定したいバンドのスケルチを最大にする
 (これで手順4で設定したレベルのRFスケルチ状態になります。)

もっと自由に使うために



- ◆ RFスケルチが設定されている場合、スキャン中に信号を受信すると、RFスケルチの設定レベル以上でないとスキャンは停止しません。
- ◆ RFスケルチを解除するには、スケルチを下げるか、手順4でOFFを設定してください。

送信出力を変えるには

送信出力を変更することができます。

C5700, C5710, C5720 では、10 W(ハイパワー)、5 W(ミドルパワー)、1 W(ローパワー)に送信出力を変更できます。C5700D, C5710D, C5720D では、50/40 W(ハイパワー)、10 W(ミドルパワー)、3 W(ローパワー)に送信出力を変更できます。最初の設定(工場出荷時)はハイパワーです。

コントロールヘッドでは、

1 **[144]**キーまたは**[430]**キーでバンドを選ぶ

2 VFO 状態を確かめる

3 **[FNC]**キーを押す

4 **[MS/PO]**キーを押す

5 ディスプレーにMが点灯することを確認する(ミドルパワーに設定されました)

433.200 M ← M表示

6 **[MS/PO]**キーを押す

7 ディスプレーの点灯がMからLに変わったことを確認する(ローパワーに設定されました)

433.200 L ← L表示

8 **[MS/PO]**キーを押す

9 ディスプレーのLが消えることを確認する(ハイパワーに設定されました)

フルリモコンマイクでは、

1 **[D/BAND]**キーでバンドを選ぶ

2 VFO 状態を確かめる

3 **[C/PO]**キーを押す

4 ディスプレーにMが点灯することを確認する(ミドルパワーに設定されました)

M表示 → 433.200

5 **[C/PO]**キーを押す

6 ディスプレーの点灯がMからLに変わったことを確認する(ローパワーに設定されました)

L表示 → 433.200

7 **[C/PO]**キーを押す

8 ディスプレーのLが消えることを確認する(ハイパワーに設定されました)

●ハイパワーで送信したときのディスプレイの表示は

●ミドルパワーで送信したときのディスプレイの表示は

●ローパワーで送信したときのディスプレイの表示は



◆コントロールヘッドでは、送信出力の変更はファンクションモード中に行ってください。

◆C5700D, C5710D, C5720D では、ハイパワーの設定は144 MHz帯は50 W、430 MHz帯は40 Wです。

メモリー機能を使うには

メモリー機能について	42
メモリーするには	42
メモリーを呼び出すには	43
メモリーを消去するには	43
メモリーを変更するには	43
メモリーに優先順位をつけるには	44
(メモリープライオリティー)	
メモリー周波数にトーンスケルチモードを書き込むには	44
メモリー周波数にトーンエンコードモードを書き込むには	45
メモリーのトーン周波数を書き換えるには	45
メモリー周波数にページングモードを書き込むには	46
メモリー周波数にコードスケルチモードを書き込むには	46
メモリー周波数にレピータモードを書き込むには	47
メモリー周波数にスキャン方法を書き込むには	47
メモリーされているレピータのシフト周波数を書き換えるには	48
メモリーを変更できないようにするには: SET16	48
(メモリープロテクト)	

メモリー機能について

この無線機は、メモリーが各バンドごとに20チャンネルあります(CMU181 使用時)。
したがって、この無線機は40波の周波数を記憶できます。また、それぞれの周波数には、レピータモード、ページングモード等も書き込むことができます。また、トーン周波数、オフセット周波数は各メモリーごとに違ったものを書き込むことができます。

その他にも、メモリーに優先順位をつけたり、メモリーを間違えて変更するのを防ぐこともできます。

別売り品のCMU182に取り換えることにより、各バンドごとに100チャンネルのメモリーができます。

周波数とともに、書き込みができるのは次の通りです。

- ◇ トーンスケルチモード ◇ コードスケルチモード
- ◇ トーンエンコードモード ◇ レピータモード
- ◇ ページングモード ◇ スキャン方法(ポーズ/ビジー/ホールド)



- ◆ トーン周波数、シフト周波数は各メモリーごとに違ったものを書き込むことができます。
- ◆ VHF 側でも V-V, U-U 動作を使用すると、430 MHz 帯の周波数を書き込むことができます。また UHF 側でも V-V, U-U 動作を使用すると、144 MHz 帯の周波数を書き込むことができます (P. 60)。

メモリーするには

よく使う周波数を、メモリーに書き込むことができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 メインダイヤルを回し、メモリーしたい周波数にする
- 4 [V.M/ENT]キーを押す
- 5 メインダイヤルを回し、Mが点滅する番号にする

- 6 [FNC]キーを押す
- 7 [V.M/ENT]キーを2回押す
- 8 Mが表示していることを確認める (これでメモリーされました。)
- 9 [V.M/ENT]キーを押す
- 10 VFO 状態に戻ったことを確認める

フルリモコンマイクでは、

- 1 [D/BAND]キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、メモリーしたい周波数にする
- 4 [#V-M]キーを押す
- 5 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、Mが点滅する番号にする

- 6 [* /ENT-DIRECT]キーを2回押す
- 7 Mが表示していることを確認める (これでメモリーされました。)
- 8 [#V-M]キーを押す
- 9 VFO 状態に戻ったことを確認める

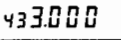
- ◆ VFO 状態とは、メインダイヤル、[2/DOWN]/[3/UP]キーまたはテンキーで周波数を変えることができる状態です。
- ◆ Mが点滅している番号は、メモリーが書き込まれていません。したがって、この状態では、好きな番号に書き込むことができます。

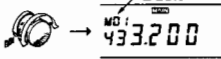
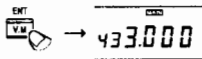
メモリーを呼び出すには

書き込まれているメモリーを呼び出します。

コントロールヘッドでは、

- 1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

- 2 VFO状態を確認める

- 3 [V.M/ENT]キーを押す

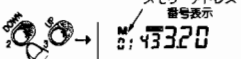
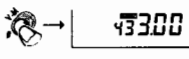
- 4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする
メモリーアドレス番号表示

- 5 VFO状態にするには、[V.M/ENT]キーを押す


フルリモコンマイクでは、

- 1 [D/BAND]キーでバンドを選ぶ

- 2 VFO状態を確認める

- 3 [#V-M]キーを押す

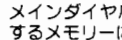
- 4 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、呼び出すメモリーにする
メモリーアドレス番号表示

- 5 VFO状態にするには、[#V-M]キーを押す


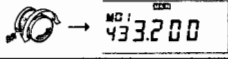
メモリーを消去するには

書き込まれているメモリーを消すことができます。

コントロールヘッドでは、

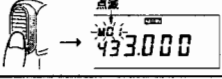
- 1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

- 2 VFO状態を確認める

- 3 [V.M/ENT]キーを押す

- 4 メインダイヤルを回し、消去するメモリーにする

- 5 [FNC]キーを押す

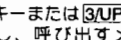
- 6 [V.M/ENT]キーを押す

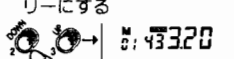
- 7 ディスプレーがメモリー変更できるようになっていることを確かめる

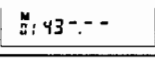
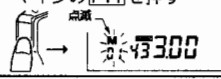
- 8 マイクの[PTT]を押す

- 9 [V.M/ENT]キーを押す
VFO状態に戻ったことを確かめる


フルリモコンマイクでは、

- 1 [D/BAND]キーでバンドを選ぶ

- 2 VFO状態を確認める

- 3 [#V-M]キーを押す

- 4 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、呼び出すメモリーにする

- 5 [* /ENT-DIRECT]キーを押す

- 6 ディスプレーがメモリー変更できるようになっていることを確かめる

- 7 マイクの[PTT]を押す

- 8 [#V-M]キーを押す
VFO状態に戻ったことを確かめる


メモリーを変更するには

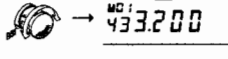
書き込んであるメモリーを変更することができます。

コントロールヘッドでは、

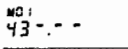
- 1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

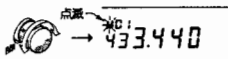
- 2 VFO状態を確認める

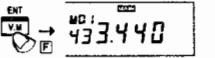
- 3 [V.M/ENT]キーを押す

- 4 メインダイヤルを回し、変更するメモリーを呼び出す

- 5 [FNC]キーを押す

- 6 [V.M/ENT]キーを押す

- 7 ディスプレーがメモリー変更できるようになっていることを確かめる


- 8 メインダイヤルを回し、変更する周波数にする

- 9 [FNC]キーを押す

- 10 [V.M/ENT]キーを押す
Mが表示していることを確かめる
(これでメモリーされました。)

- 11 [V.M/ENT]キーを押す

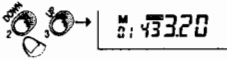
- 12 [VFO]状態に戻ったことを確かめる

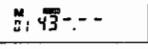

フルリモコンマイクでは、

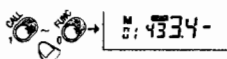
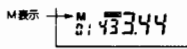
- 1 [D/BAND]キーでバンドを選ぶ

- 2 VFO状態を確認める

- 3 [#V-M]キーを押す

- 4 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、呼び出すメモリーにする

- 5 [* /ENT-DIRECT]キーを押す

- 6 ディスプレーがメモリー変更できるようになっていることを確かめる


- 7 テンキーで、変更する周波数を入力する

- 8 最後の1桁を入力すると、ピー音が鳴る
(これでメモリーされました。)
M表示

- 9 [#V-M]キーを押す

- 10 VFO状態に戻ったことを確かめる


◆フルリモコンマイクで、手順7を[2/DOWN] (DOWN) キーまたは[3/UP] (UP) キーで行うことはできません。

メモリー機能を使うには

メモリー機能を使うには

メモリーに優先順位をつけるには (メモリープライオリティー)

メモリスキャンを行うときの優先順位をつけることができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 **[144]**キーまたは**[430]**キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 **[V.M/ENT]**キーを押す
- 4 メインダイヤルを回し、優先順位をつけるメモリーにする
- 5 **[FNC]**キーを押す
- 6 メインダイヤルを回し、優先順位の番号にする
[FNC]キーを押す
優先順位 MD: 433.200 → **[FNC]**
- 7 **[V.M/ENT]**キーを押す
VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]**キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 **[#V-M]**キーを押す
- 4 **[2/DOWN]**キーまたは**[3/UP]**キーを押し、優先順位をつけるメモリーにする
- 5 **[0/FUNC]**キーを押す
- 6 **[2/DOWN]**キーまたは**[3/UP]**キーを押し、優先順位の番号にする
[0/FUNC]キーを押す
優先順位 MD: 433.200 →
- 7 **[#V-M]**キーを押す
VFO 状態に戻ったことを確かめる

◆優先順位の番号はメインダイヤルまたは**[2/DOWN]**キー/**[3/UP]**キーを操作するたびに変わり、その順番は次のようになります。

空欄 → 1 → 2

◆優先順位を1にすると、プライオリティースキャン1とプライオリティースキャン2のときにスキャンが行われます。

◆優先順位を2にすると、プライオリティースキャン2のときにスキャンが行われます。

◆優先順位を空欄にすると、優先番号はつきません。

メモリー周波数にトーンスケルチモードを書き込むには

書き込まれているメモリー周波数に、さらにトーンスケルチモードを書き込むことができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 **[144]**キーまたは**[430]**キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 **[V.M/ENT]**キーを押す
- 4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする
- 5 **[FNC]**キーを押す
- 6 **[SCN/TSQ]**キーを2回押す

- 7 ディスプレーにTSQが表示されるのを確認する
- 8 FUNCモードが解除されているときは、**[FNC]**キーを押す
- 9 **[V.M/ENT]**キーを2回押す
- 10 **[V.M/ENT]**キーを押す
- 11 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]**キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 **[#V-M]**キーを押す
- 4 **[2/DOWN]**キーまたは**[3/UP]**キーを押し、呼び出すメモリーにする
- 5 **[6/T-SQL]**キーを2回押す

- 6 ディスプレーにTSQが表示されるのを確認する
TSQ表示 MD: 433.200
- 7 **[*/ENT-DIRECT]**キーを2回押す
- 8 **[#V-M]**キーを押す
- 9 VFO 状態に戻ったことを確かめる

◆このときに、書き込まれるトーン周波数は、あらかじめ設定してあるトーン周波数となります。
トーンスケルチを使うと、トーン周波数が同じ人の信号を受けたときだけスケルチが開きます。

メモリー周波数にトーンエンコードモードを書き込むには

書き込まれているメモリー周波数に、さらにトーンエンコードモードを書き込むことができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 **[144]**キーまたは**[430]**キーでバンドを選ぶ

- 2 VFO 状態を確かめる

- 3 **[V.M/ENT]**キーを押す

- 4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする

- 5 **[FNC]**キーを押す

- 6 **[SCN/TSQ]**キーを押す

- 7 ディスプレーに **T** が表示されるのを確認する

- 8 **FUNC** モードが解除されているときは、**[FNC]**キーを押す

- 9 **[V.M/ENT]**キーを2回押す

- 10 **[V.M/ENT]**キーを押す

- 11 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]**キーでバンドを選ぶ

- 2 VFO 状態を確かめる

- 3 **[#V-M]**キーを押す

- 4 **[2/DOWN]**キーまたは**[3/UP]**キーを押し、呼び出すメモリーにする

- 5 **[6/T-SQL]**キーを押す

- 6 ディスプレーに **T** が表示されるのを確認する

- 7 **[*/ENT-DIRECT]**キーを2回押す

- 8 **[#V-M]**キーを押す

- 9 VFO 状態に戻ったことを確かめる

メモリーのトーン周波数を書き換えるには

メモリーに書き込まれているトーンの周波数を書き換えることができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 **[144]**キーまたは**[430]**キーでバンドを選ぶ

- 2 VFO 状態を確かめる

- 3 **[V.M/ENT]**キーを押す

- 4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする

- 5 **[FNC]**キーを押す

- 6 ディスプレーがトーン周波数表示になるまで **[SCN/TSQ]**キーを押す

- 7 メインダイヤルを回し、トーン周波数を変える

- 8 ディスプレーがメモリー表示になるまで **[SCN/TSQ]**キーを押す

- 9 **[V.M/ENT]**キーを押す

- 10 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]**キーでバンドを選ぶ

- 2 VFO 状態を確かめる

- 3 **[#V-M]**キーを押す

- 4 **[2/DOWN]**キーまたは**[3/UP]**キーを押し、呼び出すメモリーにする

- 5 ディスプレーがトーン周波数表示になるまで、**[6/T-SQL]**キーを押す

- 6 **[2/DOWN]**キーまたは**[3/UP]**キーを押し、トーン周波数を変える

- 7 ディスプレーがメモリー表示になるまで **[6/T-SQL]**キーを押す

- 8 **[#V-M]**キーを押す

- 9 VFO 状態に戻ったことを確かめる

メモリー機能を使うには

メモリー周波数にページングモードを書き込むには

書き込まれているメモリー周波数に、さらにページングモードを書き込むことができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 **[144]**キーまたは**[430]**キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO状態を確認める
- 3 **[V.M/ENT]**キーを押す

- 4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする
 → MD: 433.200
- 5 **[PG-C/DI]**キーを押す

- 6 ディスプレーにPAGが表示されるのを確認する
PAG表示
MD: 433.200

- 7 **[FNC]**キーを押す

- 8 **[V.M/ENT]**キーを2回押す
 → 
- 9 **[V.M/ENT]**キーを押す

- 10 VFO状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]**キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO状態を確認める
- 3 **[#V-M]**キーを押す

- 4 **[2/DOWN]**キーまたは**[3/UP]**キーを押し、呼び出すメモリーにする
 → MD: 433.200
- 5 **[4/PG-C]**キーを押す


- 6 ディスプレーにPAGが表示されるのを確認する
PAG表示 → MD: 433.200
- 7 **[*/ENT-DIRECT]**キーを2回押す
 → 
- 8 **[#V-M]**キーを押す

- 9 VFO状態に戻ったことを確かめる

メモリー周波数にコードスケルチモードを書き込むには

書き込まれているメモリー周波数に、さらにコードスケルチモードを書き込むことができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 **[144]**キーまたは**[430]**キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO状態を確認める
- 3 **[V.M/ENT]**キーを押す

- 4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする
 → MD: 433.200
- 5 **[PG-C/DI]**キーを2回押す
 → 
- 6 ディスプレーにCSQが表示されるのを確認する
CSQ表示
MD: 433.200

- 7 **[FNC]**キーを押す

- 8 **[V.M/ENT]**キーを2回押す
 → 
- 9 **[V.M/ENT]**キーを押す

- 10 VFO状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]**キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO状態を確認める
- 3 **[#V-M]**キーを押す

- 4 **[2/DOWN]**キーまたは**[3/UP]**キーを押し、呼び出すメモリーにする
 → MD: 433.200
- 5 **[4/PG-C]**キーを2回押す
 → 

- 6 ディスプレーにCSQが表示されるのを確認する
CSQ表示 → MD: 433.200
- 7 **[*/ENT-DIRECT]**キーを2回押す
 → 
- 8 **[#V-M]**キーを押す

- 9 VFO状態に戻ったことを確かめる

 ◆書き込まれているメモリー周波数に、さらにDTMFモードを書き込むことはできません。

メモリー周波数にレピータモードを書き込むには

書き込まれているメモリー周波数に、さらにレピータモードを書き込むことができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 **[144]** キーまたは **[430]** キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 **[V.M/ENT]** キーを押す

- 4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする
 → **MD: 433.200**
- 5 **[FNC]** キーを押す

- 6 **[REV/RPT]** キーを押す


- 7 ディスプレーに **T** が表示されるのを確認する
MD: 433.200 **T**-表示
- 8 **[FNC]** キーを押す

- 9 **[V.M/ENT]** キーを 2 回押す
 → 
- 10 **[V.M/ENT]** キーを押す

- 11 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]** キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 **[#V-M]** キーを押す

- 4 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押し、呼び出すメモリーにする
 → **M: 433.200**
- 5 **[RPT/SFT]** キーを押す


- 6 ディスプレーに **T** が表示されるのを確認する
T-表示 → **M: 433.200**
- 7 **[*/ENT-DIRECT]** キーを 2 回押す
 → 
- 8 **[#V-M]** キーを押す

- 9 VFO 状態に戻ったことを確かめる

◆レピータを使う周波数は、アマチュア業務に使用する電波の形式および周波数の使用区分に沿った周波数でご使用ください。

メモリー周波数にスキャン方法を書き込むには

書き込まれているメモリー周波数に、さらにスキャン方法を書き込むことができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 **[144]** キーまたは **[430]** キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 **[V.M/ENT]** キーを押す

- 4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする
 → **MD: 433.200**
- 5 **[FNC]** キーを押す

- 6 メインダイヤルツマミを押す


- 7 ディスプレーに **B** が表示されるのを確認する
B 表示 → **MD: 433.200**
- 8 **FUNC** モードが解除されているときは、**[FNC]** キーを押す

- 9 **[V.M/ENT]** キーを 2 回押す
 → 
- 10 **[V.M/ENT]** キーを押す

- 11 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]** キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 **[#V-M]** キーを押す

- 4 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押し、呼び出すメモリーにする
 → **M: 433.200**
- 5 **[FUNC]** キーを押す

- 6 **[V-V-U-U]** キーを押す


- 7 ディスプレーに **B** が表示されるのを確認する
B 表示 → **M: 433.200**
- 8 **[FUNC]** キーを押して、**FUNC** モードを解除する

- 9 **[*/ENT-DIRECT]** キーを 2 回押す
 → 
- 10 **[#V-M]** キーを押す

- 11 VFO 状態に戻ったことを確かめる

◆**B** が表示されているときに、再度 **FUNC** モードでメインダイヤルツマミを押すと、**B** が消えて **B** が点灯します。

ブランク : ボース
B : ビジー
H : ホールド

メモリー機能を使うには

メモリーされているレピータのシフト周波数を書き換えるには

メモリーされているレピータのシフト周波数を書き換えることができます。

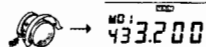
コントロールヘッドでは、

- 1 **[144]**キーまたは**[430]**キーでバンドを選ぶ

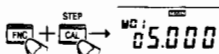
- 2 VFO 状態を確認める

- 3 **[V.M/ENT]**キーを押す

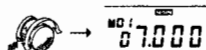
- 4 メインダイヤルを回し、呼び出すメモリーにする



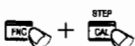
- 5 **[FNC]**キーを押しながら、**[CAL/STEP]**キーを押す



- 6 メインダイヤルを回し、設定する周波数にする



- 7 **[FNC]**キーを押しながら、**[CAL/STEP]**キーを押す



- 8 **[V.M/ENT]**キーを押す



- 9 VFO 状態に戻ったことを確かめる

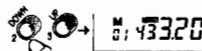
フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]**キーでバンドを選ぶ

- 2 VFO 状態を確認める

- 3 **[#V-M]**キーを押す

- 4 **[2/DOWN]**キーまたは**[3/UP]**キーを押す、呼び出すメモリーにする



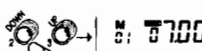
- 5 ディスプレーがシフト周波数表示になるまで**[RPT/SFT]**キーを押し続ける



- 6 ディスプレーがシフト周波数を設定できる状態になったことを確かめる



- 7 **[2/DOWN]**キーまたは**[3/UP]**キーを押す、設定する周波数にする



- 8 ディスプレーがメモリー表示になるまで**[RPT/SFT]**キーを押し続ける



- 9 **[#V-M]**キーを押す



- 10 VFO 状態に戻ったことを確かめる

- ◆フルリモコンマイクでの手順5、8では、**[RPT/SFT]**キーは0.5秒以上押してください。
- ◆フルリモコンマイクでの手順7では、**[*/ENT-DIRECT]**キーを押した後、テンキーでダイレクト入力することができます。

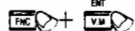
メモリーを変更できないようにするには(メモリープロテクト)

メモリーされている周波数やいろいろな設定を間違えて変更または、メモリーごとに消去するのを防ぐことができます。

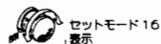
コントロールヘッドでは、

- 1 VFO 状態を確認める

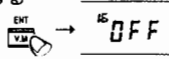
- 2 **[FNC]**キーを押しながら、**[V.M/ENT]**キーを押す



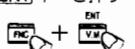
- 3 メインダイヤルを回し、セットモードの16にする



- 4 **[V.M/ENT]**キーを押す、ディスプレイの表示をOFFからonにする



- 5 **[FNC]**キーを押しながら、**[V.M/ENT]**キーを押す



VFO 状態に戻ったことを確かめる

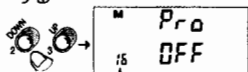
フルリモコンマイクでは、

- 1 VFO 状態を確認める

- 2 **[SET]**キーを押す

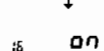
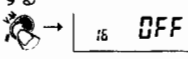


- 3 **[2/DOWN]**キーまたは**[3/UP]**キーを押す、セットモードの16にする



セットモード16表示

- 4 **[#V-M]**キーを押す、ディスプレイの表示をOFFからonにする



- 5 **[SET]**キーを押す



VFO 状態に戻ったことを確かめる

- ◆メモリープロテクトを設定しても、メモリーを初めの状態に戻すリセット動作(オールリセット、メモリーリセット)を行うと、メモリー内容は消去されます。(P.62)

スキャン機能を使うには

スキャン機能について	50
スキャンする前の準備	51
1 MHz内でスキャンするには	52
(1 MHzスキャン)	
バンドの全域をスキャンするには	52
(オールスキャン)	
指定した範囲をスキャンするには	52
(プログラムスキャン)	
メモリー周波数をスキャンするには	53
(メモリスキャン)	
優先順位をつけられたメモリーをスキャンするには	53
(プライオリティスキャン)	
メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには	53
(ブロックメモリスキャン)	
トーンスケルチ状態でスキャンするには	54
スキャンする速さを変えるには : SET01	54
スキャン方法を選択するには	54
(ポーズスキャン/ビジースキャン/ホールドスキャンの選択) : SET02, 03	
ホールドスキャンの待ち時間を変更するには : SET04	54

スキャン機能について

この機能は、自動的に周波数を変え、受信したい信号を探し出すものです。
この機能には、次の6種類の方法があり、より早く信号を探し出すことができます。

◇ 1 MHz スキャン

周波数の1MHz台は越えずにスキャンします。

◇ オールスキャン

バンドの全域をスキャンします。

◇ プログラムスキャン

指定した範囲をスキャンします。

◇ メモリースキャン

メモリーしている周波数をスキャンします。

◇ ブロックメモリースキャン

メモリーをブロック単位でスキャンします。ブロックとは、メモリー番号の10の桁を1つのブロックとします。

◇ プライオリティースキャン

メモリーに優先順位をつけスキャンします。

また、スキャンの仕方には、次の3種類があります。

◇ ポーズスキャン

信号を受けるとスキャンは止まります。しかし、約5秒後には信号を受けていても、スキャンを再開します。

◇ ビジースキャン

信号を受けている間は、スキャンは止まります。信号が無くなると、約1.5秒後にスキャンを再開します。

◇ ホールドスキャン

信号を受けている間、スキャンは止まります。信号が無くなってから、スキャンを再開するまでの時間を決めることができます。:SET04



トーンスケルチ状態でスキャンを開始したときは、信号を受信するとスキャンするスピードが遅くなり、トーン周波数が一致したときにスキャンが停止し、スケルチが開きます。

スキャンする前の準備

コントロールヘッドでは、

- 1 ザーという音が出ない位置まで、**[SQL]** ツマミを回す

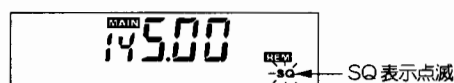


フルリモコンマイクでは、

- 1 **[AVO-SQ]** キーを押す



- 2 ディスプレーにSQ表示が点滅するのを確認する
Vが表示しているときは、再度、**[AVO-SQ]** キーを押す



- 3 ザーという音が出ない位置まで、**[3/UP]** キーを押す



◆ザーという音が出ていたり、信号を受けているときは、スキャンを始めません。SQLが働き、信号を受けていないことを確認してください。

◆スキャン中に、**[PTT]**を押すと、スキャンモードが解除され送信をします。

◆スキャンする方向を変えるときは、マイクの**[2/DOWN]**キーまたは**[3/UP]**キーを押すか、メインダイヤルを右または左に回してください。

◆信号を受けスキャンが止まっている間にマイクの**[2/DOWN]**キーまたは**[3/UP]**キーを押すか、メインダイヤルを右または左に回すと、次の周波数に動きます。

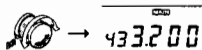
◆RFスケルチが設定されている場合、スキャン中に信号を受信すると、RFスケルチの設定レベル以上でないとスキャンは停止しません。

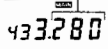
スキャン機能を使うには

1MHz内でスキャンするには(1MHzスキャン)

その表示されている周波数の1MHz台を越えずに、スキャンします。

コントロールヘッドでは、

- 1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ
- 2 メインダイヤルを回し、スキャンを始める周波数にする

- 3 [SCN/TSQ]キーを押す

- 4 100 kHz台以下がスキャンしていることを確認する
スキャンします

- 5 終了するには、[SCN/TSQ]キーを押す


フルリモコンマイクでは、

- 1 [D/BAND]キーを押し、バンドを選ぶ
- 2 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、スキャンを始める周波数にする

- 3 [8/SCAN]キーを押す

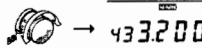
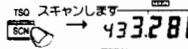
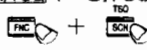
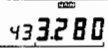
- 4 100 kHz台以下がスキャンしていることを確認する
スキャンします

- 5 終了するには、[8/SCAN]キーを押す


バンドの全域をスキャンするには(オールスキャン)

バンドの全域をスキャンします。

コントロールヘッドでは、

- 1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ
 - 2 メインダイヤルを回し、スキャンを始める周波数にする

 - 3 [SCN/TSQ]キーを押し、1MHzスキャンを始める
150 スキャンします

 - 4 [FNC]キーを押しながら、[SCN/TSQ]キーを押す続ける

 - 5 ビッという音がしたら、それぞれのキーを放す
 - 6 スキャンしていることを確認する
スキャンします

- 終了するには、[SCN/TSQ]キーを押す

フルリモコンマイクでは、

- 1 [D/BAND]キーを押し、バンドを選ぶ
 - 2 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、スキャンを始める周波数にする

 - 3 [8/SCAN]キーを押し、1MHzスキャンを始める
スキャンします

 - 4 [0/FUNC]キーを押す

 - 5 [8/SCAN]キーを押す

 - 6 ビッという音がしたら、スキャンしていることを確認する
スキャンします

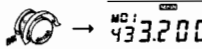
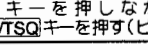
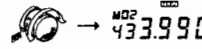
- 終了するには、[8/SCAN]キーを押す

◆コントロールヘッドの手順の4で、それぞれのキーは0.5秒以上押してください。
一度オールスキャンに設定すると、次のスキャンからは[SCN/TSQ]キーまたは[8/SCAN]キーを押すだけでオールスキャンになります。
◆オールスキャンを1MHzスキャンにもどすには、オールスキャン中に手順4、5を行います。このとき、ボツという音がします。

指定した範囲をスキャンするには(プログラムスキャン)

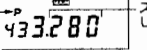
メモリーされている周波数を指定し、その間でスキャンします。スキャンを始める周波数より スキャンを終る周波数の方が低い場合はその間以外の範囲をスキャンします。

コントロールヘッドでは、スキャンするには

- 1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ
 - 2 [V.M/ENT]キーを押す
《メモリーを呼び出し状態》
 - 3 メインダイヤルを回し、スキャンを始めるメモリーを呼び出す

 - 4 [FNC]キーを押しながら、[SCN/TSQ]キーを押す(ビッ音)
P表示 → P

 - 5 メインダイヤルを回し、スキャンを終るメモリーを呼び出す

 - 6 [FNC]キーを押しながら、[SCN/TSQ]キーを押す(ビッ音)
 - 7 ディスプレーにPが表示され、スキャンが始まることを確認する
この設定例の場合には433.200-433.990MHzの間をスキャンします。
P表示 → P

- 終了するには、[SCN/TSQ]キーを2回押すか、[FNC]キーを押しながら[SCN/TSQ]キーを押す

もう一度同じ範囲で、スキャンするには

- 1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ
 - 2 VFO状態を確かめる
 - 3 [FNC]キーを押しながら、[SCN/TSQ]キーを押す
 - 4 ディスプレーにPが表示され、スキャンが始まることを確認する
P表示 → P

- 終了するには、[SCN/TSQ]キーを2回押すか、[FNC]キーを押しながら、[SCN/TSQ]キーを押す
- スキャンする範囲を変更するには
- 1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ
 - 2 [V.M/ENT]キーを押す
《メモリーを呼び出し状態》
 - 3 [FNC]キーを押しながら、[SCN/TSQ]キーを押す(ボツ音)
《この動作で、プログラムスキャンの指定が解除されました》
 - 4 スキャンするには手順3より再度始める

フルリモコンマイクでは、スキャンするには

- 1 [D/BAND]キーを押し、バンドを選ぶ
 - 2 [V-M]キーを押す
《メモリーを呼び出し状態》
 - 3 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、スキャンを始めるメモリーを呼び出す

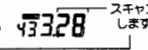
 - 4 [0/FUNC]キーを押す

 - 5 [9/P-S]キーを押す(ビッ音)

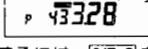
 - 6 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、スキャンを終るメモリーを呼び出す

 - 7 [0/FUNC]キーを押す

 - 8 [9/P-S]キーを押す(ビッ音)

 - 9 [9/P-S]キーを押す
 - 10 ディスプレーにPが表示され、スキャンが始まることを確認する
P表示 → P

- 終了するには、[9/P-S]キーを押す

もう一度同じ範囲で、スキャンするには

- 1 [D/BAND]キーを押し、バンドを選ぶ
 - 2 [9/P-S]キーを押す
 - 3 ディスプレーにPが表示され、スキャンが始まることを確認する
P

- 終了するには、[9/P-S]キーを押す
- スキャンする範囲を変更するには
- 1 [D/BAND]キーを押しバンドを選ぶ
 - 2 [V-M]キーを押す
《メモリーの呼び出し状態》
 - 3 [0/FUNC]キーを押す

 - 4 [9/P-S]キーを押す(ボツ音)
《この状態でプログラムスキャンの指定が解除されました》
 - 5 「スキャンするには」の手順3より再度始める

◆プログラムスキャンの範囲を設定した後に、範囲の設定で用いたメモリーを書き換えても、プログラムスキャンの範囲は変化しません。

メモリー周波数をスキャンするには(メモリスキャン)

メモリーしている周波数をすべてスキャンします。

コントロールヘッドでは、

1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ

2 [MS/PO]キーを押す



3 スキャンしていることを確認する

433.200

スキャンします

4 終了するには、[MS/PO]キーを押す



フルリモコンマイクでは、

1 [D/BAND]キーを押し、バンドを選ぶ

2 [7/MS]キーを押す



3 スキャンしていることを確認する

M: 433.200

スキャンします

4 終了するには、[7/MS]キーを押す



◆この場合のスキャン方法は、各メモリーのスキャン方法に従って動作します。

◆スクルチの設定をザー音がなくなった所にしないと、弱い信号ではスキャンが止まらないことがあります。

優先順位をつけられたメモリーをスキャンするには(プライオリティスキャン)

メモリーに優先順位をつけ、その優先順位に従いスキャンします。

コントロールヘッドでは、

1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ

2 ディスプレーに Pri が表示するまで、[MS/PO]キーを押す

Pri

3 メインダイヤルを回し、スキャンする優先順位を決める

Pri

4 VFO 状態に戻るまで、[MS/PO]キーを押し続ける

433.200

5 再び、[MS/PO]キーを押すスキャンしていることを確認する

433.200

スキャンします

スキャンを終了するには、[MS/PO]キーを押す

フルリモコンマイクでは、

1 [D/BAND]キーを押し、バンドを選ぶ

2 ディスプレーに Pri が表示するまで、[7/MS]キーを押す

Pri

3 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、スキャンする優先順位を決める

Pri

4 VFO 状態に戻るまで、[7/MS]キーを押し続ける

433.200

5 再び、[7/MS]キーを押すスキャンしていることを確認する

M: 433.200

スキャンします

スキャンを終了するには、[7/MS]キーを押す



◆手順2でディスプレイに bLo が表示されたときはコントロールヘッドでは、[MS/PO]キーを押してください。また、フルリモコンマイクでは、[7/MS]キーを押してください。

◆ブロックスキャンとプライオリティスキャンは、コントロールヘッドの [MS/PO]キー、またはフルリモコンマイクの [7/MS]キーを押すことにより変わります。

◆プライオリティスキャン1のときは、優先順位が1のメモリーをスキャンします。

◆プライオリティスキャン2のときは、優先順位が1および2のメモリーをスキャンします。

◆優先順位をつけないメモリスキャン(すべてのメモリスキャン)をするときには優先順位表示を空欄に設定した後、メモリスキャンを始めます。

メモリー周波数をブロックごとにスキャンするには(ブロックメモリスキャン)

メモリーをブロック単位でスキャンします。ブロックとは、メモリー番号の10の桁を1つのブロックとします。ブロック番号とメモリー番号の関係は下の表のようになっています。

ブロック番号	メモリー番号	ブロック番号	メモリー番号
0	M00~M09	5	M50~M59
1	M10~M19	6	M60~M69
2	M20~M29	7	M70~M79
3	M30~M39	8	M80~M89
4	M40~M49	9	M90~M99

コントロールヘッドでは、

1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ

2 ディスプレーに Pri が表示されるまで [MS/PO]キーを押す

3 [MS/PO]キーを押すと bLo に表示が変わる

bLo

4 メインダイヤルを回し、スキャンするブロックにする

bLo

5 VFO 状態に戻るまで、[MS/PO]キーを押し続ける
再び、[MS/PO]キーを押す

6 スキャンしていることを確認する

433.200

スキャンします

スキャンを終了するには、[MS/PO]キーを押す

フルリモコンマイクでは、

1 [D/BAND]キーを押し、バンドを選ぶ

2 ディスプレーに Pri が表示されるまで [7/MS]キーを押す

3 [7/MS]キーを押すと bLo に表示が変わる

bLo

4 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、スキャンするブロックにする

bLo

5 VFO 状態に戻るまで、[7/MS]キーを押し続ける
再び、[7/MS]キーを押す

6 スキャンしていることを確認する

433.200

スキャンします

スキャンを終了するには、[7/MS]キーを押す



◆スキャンしようとするブロックのメモリー番号がすべて空いているときは、この機能は動きません。

◆ブロック番号の2~9はオプションのメモリーユニット(CMU182)が実装されていないと設定できません。

◆ブロック指定をしないメモリスキャン(すべてのメモリスキャン)をするときには、プライオリティスキャンにし、優先順位表示を空欄に設定した後、メモリスキャンを開始してください。

◆ブロック番号は、バンドごとに設定できます。

スキャン機能を使うには

スキャン機能を使うには

トーンスケルチ状態でスキャンするには

トーンスケルチが働いている状態でスキャンします。信号を受信するとスキャンするスピードが遅くなり、トーン周波数が一致したときにスキャンが止まります。

コントロールヘッドでは、

- 1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ
- 2 [FNC]キーを押す
- 3 [SCN/TSQ]キーを2回押す
- 4 ディスプレーにTSQと周波数が表示されていることを確認する
- 5 [SCN/TSQ]キーを押す
- 6 スキャンしていることを確認する
- 7 終了するには、[SCN/TSQ]キーを押す

フルリモコンマイクでは、

- 1 [D/BAND]キーを押し、バンドを選ぶ
- 2 [6/T-SQL]キーを2回押す
- 3 ディスプレーにTSQとトーン周波数が表示されていることを確認する
- 4 [8/SCAN]キーを押す
- 5 スキャンしていることを確認する
- 6 終了するには、[8/SCAN]キーを押す

スキャンする速さを変えるには

スキャンするスピードを変えることができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 [FNC]キーを押しながら、[V.M/ENT]キーを押す
- 2 メインダイヤルを回し、セットモードの01にする
- 3 [V.M/ENT]キーを押し、表示をLoからHiにする
- 4 [FNC]キーを押しながら、[V.M/ENT]キーを押す

フルリモコンマイクでは、

- 1 [SET]キーを押す
- 2 [2/DOWN]または[3/UP]キーを押し、セットモードの01にする
- 3 [#V-M]キーを押し、表示をLoからHiにする
- 4 [SET]キーを押す

お知らせ

◆このスキャンを行うには、別売りのトーンスケルチユニットCTN5700が必要です。

スキャン方法を選択するには(ボーススキャン/ビジースキャン/ホールドスキャンの選択)

ボーススキャンでは、信号を受けるとスキャンは止まります。しかし、約5秒後には信号を受けていても、スキャンを再開します。
ビジースキャンでは、信号を受けている間は、スキャンは止まります。信号がなくなると、約1.5秒後にスキャンを再開します。
ホールドスキャンでは、信号を受けている間、スキャンは止まります。信号がなくなったら、スキャンを再開するまでの時間を決めることができます。

コントロールヘッドで決めるには

- 1 [FNC]キーを押しながら、[V.M/ENT]キーを押す
- 2 VHFバンドでは、メインダイヤルを回し、セットモード02にする
- 3 [V.M/ENT]キーを押す、スキャン方法を決める
- 4 [FNC]キーを押しながら、[V.M/ENT]キーを押す

フルリモコンマイクで決めるには

- 1 [SET]キーを押す
- 2 VHFバンドでは、[2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、セットモード02にする
- 3 [#V-M]キーを押す、スキャン方法を決める
- 4 [SET]キーを押す

ホールドスキャンの待ち時間を変更するには

ホールドスキャンでは、受けていた信号が無くなってから、スキャンを始めるまでの時間を決めることができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 [FNC]キーを押しながら、[V.M/ENT]キーを押す
- 2 メインダイヤルを回し、セットモード04にする
- 3 [V.M/ENT]キーを押す、時間を決める
- 4 [FNC]キーを押しながら、[V.M/ENT]キーを押す

フルリモコンマイクでは、

- 1 [SET]キーを押す
- 2 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押す、セットモード04にする
- 3 [#V-M]キーを押す、時間を決める
- 4 [SET]キーを押す

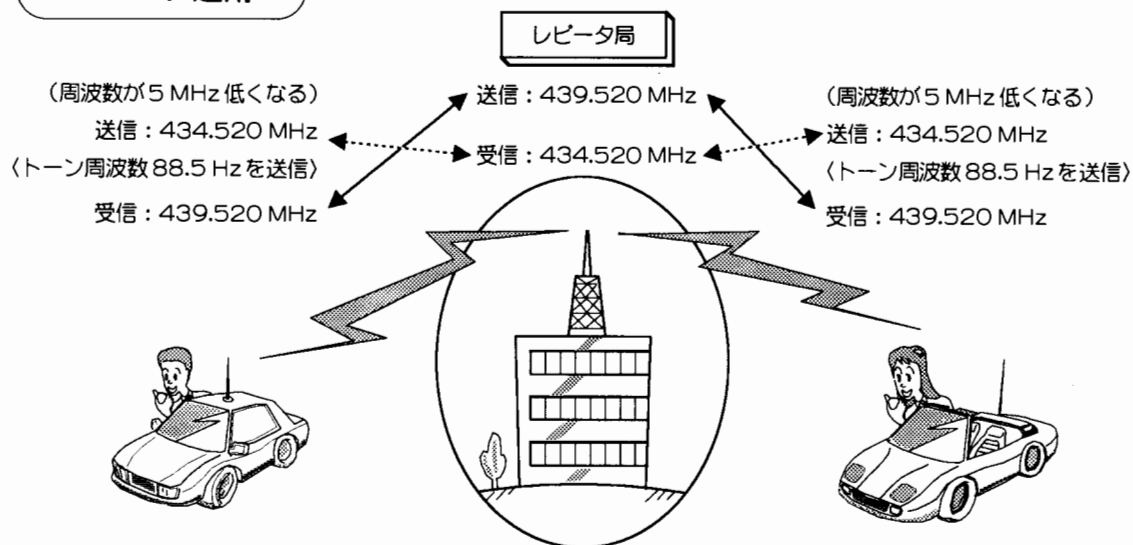
レピータを使うには

レピータ運用について	56
オートレピータモード	57
手動でレピータモードを設定するには	57
送信周波数を受信周波数より高い方向にシフトするには	57
レピータ運用時に送信と受信の周波数を逆にするには（リバース）	57
レピータ運用のオフセット周波数を変えるには	58
レピータ運用のトーン周波数を変えるには	58
オートレピータモードを解除するには：SET14	58

レピータ運用について

- レピータ局(自動中継局)を使用して、交信を行うことをレピータ運用といいます。
- レピータ局を使用すると、直接電波の届かない場所と交信できます。
- レピータ運用では、送信と受信の周波数が異なります。この周波数の差をオフセット周波数といいます。430 MHz 帯では、オフセット周波数は5 MHz です。
- 本機をレピータモードにして送信すると、自動的に送信周波数が5 MHz 低くなります。
- レピータ局は送信信号にトーン信号(88.5 Hz)があるときに使用できます。
- 本機をレピータモードにして送信すると、自動的に88.5 Hzのトーン信号が出ます。

レピータ運用



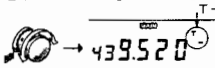
シンプレックス運用



オートレピータモード

オートレピータモードとは、受信周波数をレピータ運用の周波数に合わせると、自動的にオフセット周波数とトーン信号を設定します。

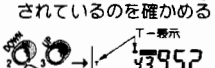
コントロールヘッドでは、

- 1 **[430]** キーを押す
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 メインダイヤルを回し、レピータ局の周波数に合わせる
ディスプレイに T+ が表示されているのを確認める

- 4 受信するには、話したい相手が送信するのを待つ

- 5 送信するには、**[PTT]** を押しながら、マイクに向かって話す


◆フルリモコンマイクでは手順 3 でダイレクト入力ができます。

フルリモコンマイクでは、

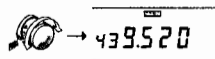
- 1 **[D/BAND]** キーを押し、430 MHz 帯を選ぶ
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押し、レピータ局の周波数に合わせる
ディスプレイに T+ が表示されているのを確認める

- 4 受信するには、話したい相手が送信するのを待つ

- 5 送信するには、**[PTT]** を押しながら、マイクに向かって話す

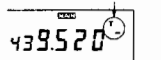
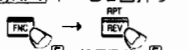

手動でレピータモードを設定するには

オートレピータモードが解除されているときに、レピータ運用が行えます。

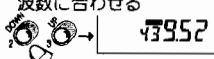
コントロールヘッドでは、

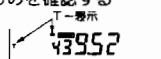
- 1 **[430]** キーを押す
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 メインダイヤルを回し、レピータ局の周波数に合わせる

- 4 **[FNC]** キーを押す

- 5 **[REV/RPT]** キーを押す

- 6 ディスプレーに T+ が表示されるのを確認する
T+ 表示

- 7 レピータモードを終わらせるには、**[FNC]** キーを押し、次に **[REV/RPT]** キーを 2 回押す


フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]** キーを押し、430 MHz 帯を選ぶ
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押し、レピータ局の周波数に合わせる

- 4 **[RPT/SFT]** キーを押す

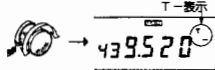
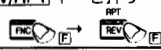
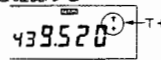
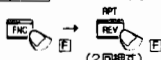
- 5 ディスプレーに T+ が表示されるのを確認する
T+ 表示

- 6 レピータモードを終わらせるには、**[RPT/SFT]** キーを 2 回押す


◆フルリモコンマイクでは手順 3 でダイレクト入力ができます。

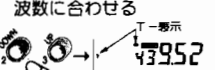
送信周波数を受信周波数より高い方向にシフトするには

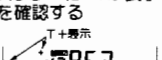
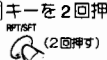
通常のレピータモードでは、オフセット周波数は 5 MHz 低くなります。しかし、本機ではオフセット周波数を 5 MHz 高くすることができます。

リモコンヘッドでは、

- 1 **[430]** キーを押す
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 メインダイヤルを回し、レピータ局の周波数に合わせる
T+ 表示

- 4 **[FNC]** キーを押し次に、**[REV/RPT]** キーを押す

- 5 ディスプレーに T+ が表示されるのを確認する
T+ 表示

- 6 もとの状態に戻すには、**[FNC]** キーを押し、次に **[REV/RPT]** キーを 2 回押す


フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]** キーを押し、430 MHz 帯を選ぶ
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押し、レピータ局の周波数に合わせる
T+ 表示

- 4 **[RPT/SFT]** キーを押す

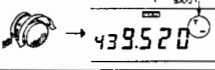
- 5 ディスプレーに T+ が表示されるのを確認する
T+ 表示

- 6 もとの状態に戻すには、**[RPT/SFT]** キーを 2 回押す


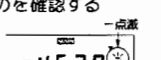
◆オフセットした周波数がアマチュアバンドからはずれるときは、送信できません。また、このとき、ディスプレイには OFF が表示されます。
◆フルリモコンマイクでは手順 3 でダイレクト入力ができます。

レピータ運用時に送信と受信の周波数を逆にするには (リバース)

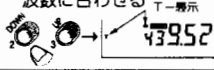
一般のレピータ運用時では、送信周波数は受信周波数より 5 MHz 低くなっています。しかし、この無線機では、送信と受信の周波数を逆にすることができます。相手局の直接波 (レピータ局を介さない信号) を受信したいときに使用します。また、直接波が受信できる場合は、レピータ機能を使用しない交信 (シンプレックス) を試してみてください。

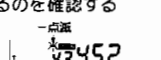
コントロールヘッドでは、

- 1 **[430]** キーを押し、430 MHz 帯を選ぶ
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 メインダイヤルを回し、レピータ局の周波数に合わせる

- 4 **[REV/RPT]** キーを押す

- 5 ディスプレーの表示が 5 MHz 低くなります
また、+ または + が点滅しているのを確認する
一点滅

- 6 リバースを終わらせるには、**[REV/RPT]** キーを押す


フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]** キーを押し、430 MHz 帯を選ぶ
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押し、レピータ局の周波数に合わせる
T+ 表示

- 4 **[REV/STEP]** キーを押す

- 5 ディスプレーの周波数が 5 MHz 低くなります
また、+ または + が点滅しているのを確認する
一点滅

- 6 リバースを終わらせるには、**[REV/STEP]** キーを押す


◆フルリモコンマイクでは手順 3 でダイレクト入力ができます。

レピータを使うには

レピータ運用のオフセット周波数を変えるには

本機はオフセット周波数を 5 MHz 以外に設定できます。これは、将来 5 MHz 以外のオフセット周波数を使用するレピータ局に対応するためです。

コントロールヘッドでは、

- 1 **[430]** キーを押す
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 **[FNC]** キーを押しながら、**[CAL/STEP]** キーを押す
- 4 ディスプレーがオフセット周波数の表示になっていることを確認する
- 5 メインダイヤルを回し、新しいオフセット周波数に合わせる
- 6 **[FNC]** キーを押しながら、**[CAL/STEP]** キーを押す
- 7 ディスプレーが変更前に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]** キーを押し、430MHz 帯を選ぶ
 - 2 VFO 状態を確認める
 - 3 ディスプレーがオフセット周波数の表示になるまで **[RPT/SFT]** キーを押す
 - 4 **[2/DOWN]** または **[3/UP]** キーを押して、新しいオフセット周波数に合わせる
 - 5 ディスプレーが変更前に戻るまで **[RPT/SFT]** キーを押す
- ◆フルリモコンマイクでは、手順 4 でダイレクト入力ができます。(10MHz 台からの入力です)

レピータ運用のトーン周波数を変えるには

本機はトーン周波数を 88.5 Hz 以外に設定できます。これは、将来 88.5 MHz 以外のトーン周波数を使用するレピータ局に対応するためです。ただし、他のトーン周波数に変えるには別売りのトーンスケルチュニット CTN5700 が必要です。

コントロールヘッドでは、

- 1 **[430]** キーを押す
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 **[FNC]** キーを押す
- 4 ディスプレーがトーン周波数の表示になるまで、**[SCN/TSQ]** キーを押す
- 5 メインダイヤルを回し、新しいトーン周波数に合わせる
- 6 FUNC モードが解除されているときは **[FNC]** キーを押す
- 7 ディスプレーが変更前に戻るまで **[SCN/TSQ]** キーを押す

フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]** キーを押し、430MHz 帯を選ぶ
- 2 VFO 状態を確認める
- 3 ディスプレーがトーン周波数の表示になるまで、**[6/T-SQL]** キーを押す
- 4 **[2/DOWN]** または **[3/UP]** キーを押して、新しいオフセット周波数に合わせる
- 5 ディスプレーが変更前に戻るまで、**[6/T-SQL]** キーを押す

オートレピータモードを解除するには

初期状態(工場出荷状態)では、本機はオートレピータモードになっています。

このモードを解除することができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 **[FNC]** キーを押しながら、**[V.M/ENT]** キーを押す
- 2 メインダイヤルを回し、セットモードの 14 にする
(オートレピータ設定) セットモード 14 表示
- 3 **[V.M/ENT]** キーを押して、表示を on から OFF にする
(手動レピータ設定)
- 4 **[FNC]** キーを押しながら、**[V.M/ENT]** キーを押す

フルリモコンマイクでは、

- 1 **[SET]** キーを押す
- 2 **[2/DOWN]** または **[3/UP]** キーを押して、セットモードの 14 にする
(オートレピータ設定)
- 3 **[#V-M]** キーを押して、表示を on から OFF にする
(手動レピータ設定)
- 4 **[SET]** キーを押す

こんな使いかたもできます

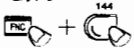
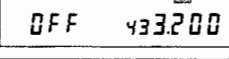
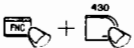
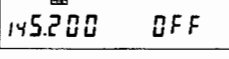
使わないバンド（周波数帯）を消すには（バンドオフ）	60
ディスプレイを同じバンド（周波数帯）にするには（V-V,U-U）	60
VFOの周波数を同時に変えるには（VFOリンク）	60
間違って送信しないためには（PTTロック）：SET15	60
送信の自動停止を設定するには：SET19	61
サブバンドの音声出力を小さくするには（サブバンドミュート）	61
音声のミュートレベルを変えるには	61
〈ミュートダウン音量 - 6dB, - 12dB, - 18dB〉：SET18	
本体のスピーカーからの音を止めるには：SET05	61
マイクのスピーカーからの音を止めるには：SET06	62
ピープ音の大きさを変えるには：SET00	62
設定を初めの状態に戻すには	62
（リセット）	
すべての設定を初めの状態に戻すには（オールリセット）	
メモリー以外の設定を初めの状態に戻すには（ノーマルリセット）	
メモリーの内容を消すには（メモリーリセット）	
セットモード機能の一覧	63

こんな使いかたもできます

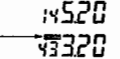
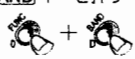
使わないバンド(周波数帯)を消すには(バンドオフ)

使わないバンドを消すことができます。これをバンドオフといいます。

コントロールヘッドでは

- 144 MHz帯を消すには
[FNC]キーを押しながら[144]
キーを押す

(144 MHz帯の表示が消える)

- 430 MHz帯を消すには
[FNC]キーを押しながら[430]
キーを押す

(430 MHz帯の表示が消える)

- この操作を解除するには、
[FNC]キーを押しながら消した
バンドのキーを押す

フルリモコンマイクでは

- [D/BAND]キーで消さないバン
ドを選ぶ
消さないほうの
バンドにMAIN
を表示する

- [O/FUNC]
[D/BAND]キーを押す

- サブバンドの表示がOFFにな
ったことを確認する
144 MHz
帯の表示が消える

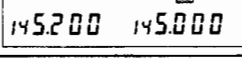
- この操作を解除するには、
[O/FUNC]キーを押しながら、
[D/BAND]キーを押す

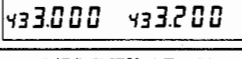
ディスプレイを同じバンド(周波数帯)にするには(V-V,U-U)

通常ディスプレイの表示は、144 MHz帯と430 MHz帯を表示していま
す。しかし、この表示を一方のバンドだけにできます。

コントロールヘッドでは

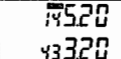
- 両方の表示を144 MHz帯にす
るには、430 MHz帯をメイン
バンドにしてからディス
プレーの表示が両方144 MHz帯
になるまで、[430]キーを押す

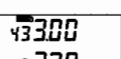

- 両方の表示を430 MHz帯にす
るには、
144 MHz帯をメインバンドに
してからディスプレイの表示
が両方430 MHz帯になるま
で、[144]キーを押す


- この操作を解除するには、
表示されていないバンドをメ
インバンドにし、表示される
までキーを押す

フルリモコンマイクでは

- [D/BAND]キーで切り換えたい
バンドを選ぶ


- [V-V,U-U]キーを押す

- メインバンドもサブバンドと
同じバンドになったことを確
認する

- この操作を解除するには、
表示されていないバンドをメ
インバンドにし、[V-V,U-U]
キーを押す

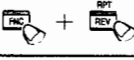
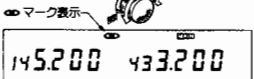
◆VHF側を430 MHz帯、UHF側を144 MHz帯にしているときバンド
オフすると、送信することができなくなります。

- ◆VHF側を430 MHz帯、UHF側を144 MHz帯に設定することもできます。
- ◆周波数が同じときでも、Sメーターの振れは異なる場合があります。
- ◆バンドが同じときに送信すると、もう一方のバンドも受信ができなくな
ります。このとき、もう一方のバンドの[MUTE]表示が点滅します。
また、VHF側をUHFに、UHF側をVHFにした状態で送信したときも、もう
一方のバンドは受信ができなくなります。
- ◆サブバンド側の受信機感度と混信特性は、本来の受信機より性能が低下
します。
左右の周波数の組み合わせで無変調波が受信されることがありますが、これ
は本体受信部の周波数構成によるもので、故障ではありません。

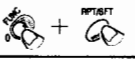
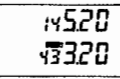
VFOの周波数を同時に変えるには(VFOリンク)

ディスプレイに表示されている両方のVFO周波数を同時に変えるこ
とができます。この操作をVFOリンクと呼びます。

コントロールヘッドでは

- [FNC]キーを押しながら、
[REV/RPT]キーを押す続ける

- ディスプレイに∞マークが表
示されることを確認する
これでメインダイヤルを回す
と両方の周波数が同時に変わ
ります。
∞マーク表示

- この操作を解除するには、
∞マークが消えるまで
[FNC]キーを押しながら
[REV/RPT]キーを押す続ける

フルリモコンマイクでは

- [O/FUNC]キーを押しながら、
[RPT/SFT]キーを押す

- ディスプレイに∞マークが表
示されることを確認する
これで[2/DOWN]キーまたは
[3/UP]キーを押すと両方の周波
数が同時に変わります。
∞マーク表示

- この操作を解除するには、
[O/FUNC]キーを押しながら
[RPT/SFT]キーを押す

◆このときの周波数ステップはメインバンド側で設定されている周波数ステッ
プで動作します。

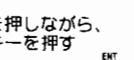
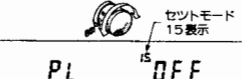
◆両バンドとも、UHFにし、片方の周波数をレピータのアップリンク周波数
(434MHz帯)もう一方のバンドをレピータのダウンリンク周波数(439MHz帯)
にしてVFOリンクを設定することにより、アップリンクとダウンリンクを対に
して受信することができます。

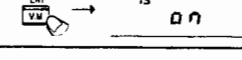
434.50 DOWN VHF側 434.52 UP 434.54
439.50 UHF側 439.52 439.54
(周波数ステップ20 kHz)

間違って送信しないためには(PTTロック)

間違って送信しないように、PTTの動作を停止することができます。

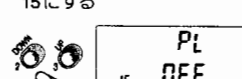
コントロールヘッドでは、

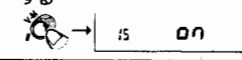
- VFO状態を確かめる
- [FNC]キーを押しながら、
[V.M/ENT]キーを押す

- メインダイヤルを回し、セッ
トモードの15にする

- [V.M/ENT]キーを押す、ディス
プレーの表示をOFFからon
にする


- [FNC]キーを押しながら
[V.M/ENT]キーを押す
- VFO状態に戻ったことを確か
める

フルリモコンマイクでは、

- VFO状態を確かめる
- [SET]キーを押す

- [2/DOWN]キーまたは[3/UP]
キーを押す、セットモードの
15にする

- [#V-M]キーを押す、ディス
プレーの表示をOFFからonに
にする


- [SET]キーを押す
- VFO状態に戻ったことを確か
める

- ◆この操作を解除するには、手順4で表示をonからOFFに変えます。
- ◆PTTロック状態でPTTを押すと、ディスプレイの周波数表示がPL
になります。

送信の自動停止を設定するには

連続 15 分以上の送信が続くと、自動的に送信を停止する機能が装備されています。送信が停止するときは、ピープ音が鳴り知らせます。この機能は初期状態で解除されています。

コントロールヘッドでは、

- 1 VFO 状態を確かめる
- 2 **FNC** キーを押しながら、**V.M/ENT** キーを押す
- 3 メインダイヤルを回し、セットモードの 19 にする
- 4 **V.M/ENT** キーを押し、ディスプレイの表示を OFF から on にする
- 5 **FNC** キーを押しながら、**V.M/ENT** キーを押す
- 6 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 VFO 状態を確かめる
- 2 **SET** キーを押す
- 3 **2/DOWN** キーまたは **3/UP** キーを押す、セットモードの 19 にする
- 4 **#V-M** キーを押し、ディスプレイの表示を OFF から on にする
- 5 **SET** キーを押す
- 6 VFO 状態に戻ったことを確かめる

サブバンドの音声出力を小さくするには(サブバンドミュート)

キー操作により、サブバンドの音声を小さくすることができます。この操作をサブバンドミュートと呼びます。

コントロールヘッドでは

- 1 UHF 側がメインバンドのとき
- 2 **FNC** キーを押しながら **MS/PO** キーを押す
- 3 サブバンドのディスプレイに **MUTE** が表示されることを確認する
また、サブバンドの音声小さくなったことを確認する
- 4 この操作を解除するには、**FNC** キーを押しながら **MS/PO** キーを押す

フルリモコンマイクでは

- 1 UHF 側がメインバンドのとき
- 2 **B/SUB MUTE** キーを押す
- 3 サブバンドのディスプレイに **MUTE** が表示されることを確認する
また、サブバンドの音声小さくなったことを確認する
- 4 この操作を解除するには、**B/SUB MUTE** キーを押す

◆誤送信を防ぐためにも、この機能はなるべく on にして使用してください。

音声のミュートレベルを変えるには

サブバンドの音声ミュートされるレベルを変えることができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 VFO 状態を確かめる
- 2 **FNC** キーを押しながら、**V.M/ENT** キーを押す
- 3 メインダイヤルを回し、セットモードの 18 にする
- 4 **V.M/ENT** キーを押し、レベルを決める
V.M/ENT キーを押すたびに、ディスプレイの表示は -12 → -18 → -6 の順に変わる
(最初の値は -12 です。-18 を選ぶと音声はより小さくなります。-6 を選ぶと -12 より音声は大きくなります。)
- 5 **FNC** キーを押しながら、**V.M/ENT** キーを押す
- 6 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 VFO 状態を確かめる
- 2 **SET** キーを押す
- 3 **2/DOWN** キーまたは **3/UP** キーを押す、セットモードの 18 にする
- 4 **#V-M** キーを押し、レベルを決める
#V-M キーを押すたびに、ディスプレイの表示は -12 → -18 → -6 の順に変わる
(最初の値は -12 です。-18 を選ぶと音声はより小さくなります。-6 を選ぶと -12 より音声は大きくなります。)
- 5 **SET** キーを押す
- 6 VFO 状態に戻ったことを確かめる

本体のスピーカーからの音を止めるには

本体に内蔵されているスピーカーから出る音を止めることができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 VFO 状態を確かめる
- 2 **FNC** キーを押しながら、**V.M/ENT** キーを押す
- 3 メインダイヤルを回し、セットモードの 05 にする
- 4 **V.M/ENT** キーを押し、ディスプレイの表示を on から OFF にする
- 5 **FNC** キーを押しながら、**V.M/ENT** キーを押す
- 6 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 VFO 状態を確かめる
- 2 **SET** キーを押す
- 3 **2/DOWN** キーまたは **3/UP** キーを押す、セットモードの 05 にする
- 4 **#V-M** キーを押し、ディスプレイの表示を on から OFF にする
- 5 **SET** キーを押す
- 6 VFO 状態に戻ったことを確かめる

◆外部スピーカーを接続しているときは、外部スピーカーの音が止まります。

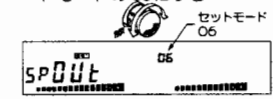
こんな使いかたもできます

マイクのスピーカーからの音を止めるには

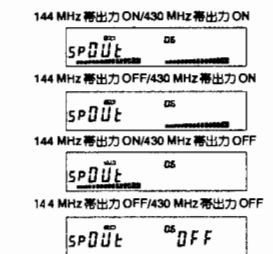
コントロールヘッドでは、

- 1 **[FNC]** キーを押しながら、**[V.M/ENT]** キーを押す

- 2 メインダイヤルを回し、セットモードの06にする



- 3 **[V.M/ENT]** キーを押し、設定を決める
[V.M/ENT] キーを押すたびに、設定は以下のように変わる



- 5 **[FNC]** キーを押しながら、**[V.M/ENT]** キーを押す

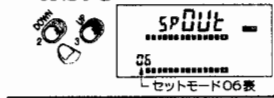
- 6 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 VFO 状態を確認める

- 2 **[SET]** キーを押す

- 3 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押し、セットモードの06にする



- 3 **[#V-M]** キーを押し、設定を決める
[#V-M] キーを押すたびに、設定は以下のように変わる



- 5 **[SET]** キーを押す

- 6 VFO 状態に戻ったことを確かめる

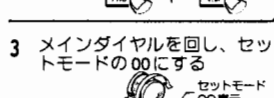
ビープ音の大きさをを変えるには

設定が完了したときや、操作を間違ったときなどに鳴るビープ音の大きさをえることができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 VFO 状態を確認める

- 2 **[FNC]** キーを押しながら、**[V.M/ENT]** キーを押す



- 3 メインダイヤルを回し、セットモードの00にする

- 4 **[V.M/ENT]** キーを押し、レベルを決める

- 5 **[V.M/ENT]** キーを押すたびに、ディスプレイの表示は2(中)→3(大)→OFF(オフ)→1(小)の順に変わる
→ 2 → 3 → OFF → 1

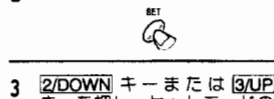
- 6 **[FNC]** キーを押しながら、**[V.M/ENT]** キーを押す

- 7 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 VFO 状態を確認める

- 2 **[SET]** キーを押す



- 3 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押し、セットモードの00にする

- 4 **[#V-M]** キーを押し、レベルを決める

- 5 **[#V-M]** キーを押すたびに、ディスプレイの表示は2(中)→3(大)→OFF(オフ)→1(小)の順に変わる
→ 2 → 3 → OFF → 1

- 6 **[SET]** キーを押す

- 7 VFO 状態に戻ったことを確かめる

◆ PTTを押して送信状態にあるとき、マイクのスピーカーは上記手順で設定した内容にかかわらず、OFFの状態になります。

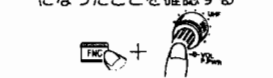
設定を初めの状態に戻すには(リセット)

この無線機では、設定した状態を3種類の方法で初めの状態に戻すことができます。この操作を行うと工場より出荷された状態に戻ります。

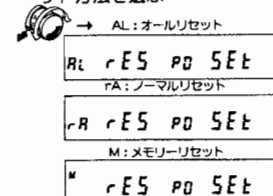
- オールリセット : VFOやメモリーなど、設定のすべてを初めの状態に戻します。
- ノーマルリセット : メモリーの設定をのぞき、その他を初めの状態に戻します。セットモードにより変更した設定も初めの状態に戻ります。
- メモリーリセット : メモリーの設定だけを初めの状態に戻します。

コントロールヘッドでは、

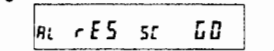
- 1 **[FNC]** キーを押しながら、**[P.PWR]** スイッチを押し電源を入れる
ディスプレイがリセット状態になったことを確認する



- 2 メインダイヤルを回し、リセット方法を選ぶ



- 3 **[MS/PO]** キーを押す

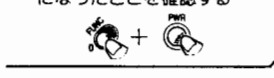


- 4 **[SCAN/TSQ]** キーを押す
これでリセットが行われました。

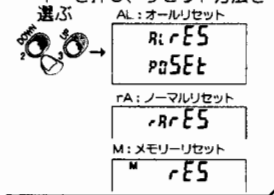
- 5 **[P.PWR]** スイッチを押し電源を切る

フルリモコンマイクでは、

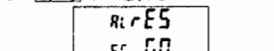
- 1 **[0/FUNC]** キーを押しながら、**[PWR]** スイッチを押し電源を入れる
ディスプレイがリセット状態になったことを確認する



- 2 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押す、リセット方法を選ぶ



- 3 **[G/PO]** キーを押す



- 4 **[8/SCAN]** キーを押す
これでリセットが行われました。

- 5 **[PWR]** スイッチを押し電源を切る

◆ リセットを行った後は、それぞれの設定はリセットされています。したがって、電源を一度切ってから再度、電源を入れる必要はありません。

セットモード機能の一覧

◆セットモードで送信するか、約1分間何も操作しないと、セットモードは自動的に解除されます。

セット モード 番 号	参 照 ページ	機 能	コントロールヘッド (初期表示)	フルリモコンマイク (初期表示)
00	62	ピープ音の大きさ設定	bP L E 00 2	bP L E 00 2
01	54	スキャンスピードの設定	scSPd 01 10	scSPd 01 10
02	54	スキャン方法の選択 (144 MHz 帯)	MAIN sc tYP 02 PRU	MAIN sc tYP 02 PRU
03	54	スキャン方法の選択 (430 MHz 帯)	sc tYP 03 MAIN PRU	sc tYP 03 MAIN PRU
04	54	ホールドスキャンの 待ち時間選択	scHOL 04 2	scHOL 04 2
05	61	本体のスピーカー音 停止/出力	MAIN SPOUT 05 ON	MAIN SPOUT 05 ON
06	62	マイクのスピーカー音 停止/出力	REM SPOUT 06	SPOUT REM 06
07	32	100 MHz 台からの ダイレクト入力 許可/禁止	d,ALL 07 d15	d,ALL 07 d15
08	75	DTMF コードの送出 スピードの設定	DTMF SPd 08 50	DTMF SPd 08 50
09	71	ページング信号が出る までの時間の設定	PAO dLY 09 250	PAO dLY 09 250

こんな使いかたもできます

セットモード機能の一覧

セット モード 番号	参 照 ページ	機 能	コントロールヘッド (初期表示)	フルリモコンマイク (初期表示)
10	71	ページング着信時の アラーム音の回数設定		
11	75	DTMFをシングル トーンに設定		
12	31	1 MHz ステップ動作 許可/禁止		
13	37	キーロック中メイン ダイヤルの許可/禁止		
14	58	オートレピータの 設定/解除		
15	60	PTTスイッチ ロック/解除		
16	48	メモリープロテクトの 設定/解除		
17	39	RF スケルチの設定		
18	61	ミュートレベルの設定		
19	61	送信の自動停止 設定/解除		

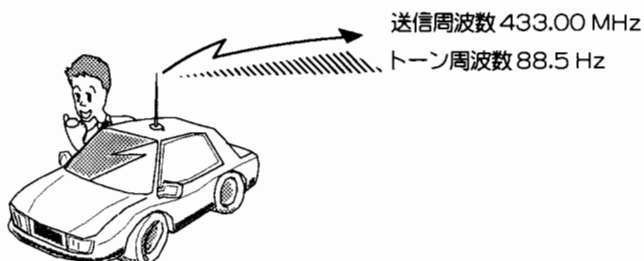
別売り品を使って

トーンスケルチユニット (CTN5700) を使って	66
トーンエンコーダーを使うには	67
トーンスケルチを使うには	67
トーン信号の周波数を変えるには	67
タッチトーンユニット (CTD5700) を使って	68
自分の個別コードを設定するには	69
話したい相手のページング・コードスケルチのコードを決めるには	69
グループコードを設定するには	70
ページングを使うには	70
ページング信号が出るまでの時間を変えるには : SET09	71
アラームの回数を変えるには : SET10	71
コードスケルチを使うには	71
DTMF を使うには	72
DTMF コードをメモリーするには	72
DTMF コードを書き換えるには	73
メモリーした DTMF コードを確認するには	74
メモリーした DTMF コードを消去するには	74
メモリーした DTMF コードを送出するには	75
DTMF コードの送出スピードを変更するには : SET08	75
DTMF をシングルトーンに変えるには : SET11	75
別売りケーブル (CAW570~CAW575) を使って	76

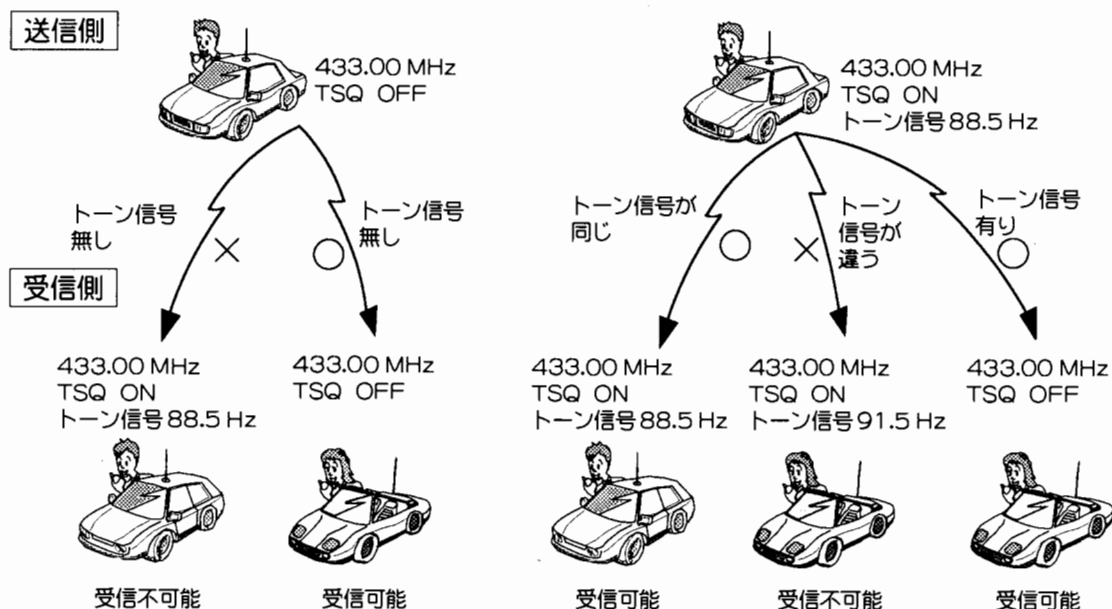
トーンスケルチユニット (CTN5700) を使って

トーンスケルチユニットをこの無線機につけることで、送信したときにトーン信号を同時に
出すことができます。

- トーンエンコーダーとは、
送信するときにトーン信号が出ます。
受信は普通にできます。



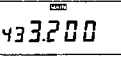
- トーンスケルチとは、
送信するときにトーン信号が出ます。また、受信するときに、自分と相手のトーン信号が同じ
でないと音声がかみません。



トーンエンコーダーを使うには

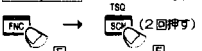
コントロールヘッドでは、

- 1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

- 2 VFO状態をかめる

- 3 FNCキーを押す

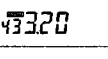
- 4 SCN/TSQキーを押す

- 5 ディスプレーにTが表示されるのを確認する

送信すると、トーン信号が出る
- 6 トーンエンコーダーをやめるには、FNCキーを押し、次にSCN/TSQキーを2回押す


フルリモコンマイクでは、

- 1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

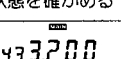
- 2 VFO状態をかめる

- 3 6/T-SQLキーを押す

- 4 ディスプレーにTが表示されるのを確認する
T表示 → 
送信すると、トーン信号が出る
- 5 トーンエンコーダーをやめるには、6/TSQを2回キーを押す

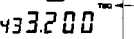
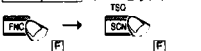

トーンスケルチを使うには

コントロールヘッドでは、

- 1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ

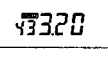
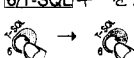
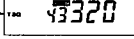
- 2 VFO状態をかめる

- 3 FNCキーを押す

- 4 SCN/TSQキーを2回押す

- 5 ディスプレーにTSQが表示されるのを確認する

送信すると、トーン信号が出る
- 6 受信は、トーン信号が合うと、音声が出る
送信すると、トーン信号が出る
- 7 トーンスケルチをやめるには、FNCキーを押し、次にSCN/TSQキーを押す


フルリモコンマイクでは、

- 1 D/BANDキーでバンドを選ぶ

- 2 VFO状態をかめる

- 3 6/T-SQLキーを2回押す

- 4 ディスプレーにTSQが表示されるのを確認する
TSQ表示 → 
- 5 受信は、トーン信号が合うと、音声が出る
送信すると、トーン信号が出る
- 6 トーンスケルチをやめるには、6/T-SQLキーを押す


トーン信号の周波数を変えるには

コントロールヘッドでは、

- 1 144キーまたは430キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO状態をかめる
- 3 FNCキーを押す

- 4 ディスプレーがトーン信号を変更できる状態になるまでSCN/TSQキーを押す

88.5
- 5 メインダイヤルで、変更するトーン信号の周波数に合わせる

77.0
- 6 FUNCモードが解除されているときはFNCキーを押す

- 7 VFO状態に戻るまでSCN/TSQキーを押す(これで、新しいトーン信号になりました。)


フルリモコンマイクでは、

- 1 D/BANDキーでバンドを選ぶ
- 2 VFO状態をかめる
- 3 ディスプレーがトーン信号を変更できる状態になるまで6/T-SQLキーを押す

88.5
- 4 2/DOWNキーまたは3/UPキーで、変更するトーン信号の周波数に合わせる

77.0
- 5 VFO状態に戻るまで6/T-SQLキーを押す(これで、新しいトーン信号になりました。)

◆トーン信号は、始め(工場出荷時) 88.5 Hzです。

67.0	85.4	103.5	127.3	156.7	192.8	241.8
71.9	88.5	107.2	131.8	182.2	203.5	250.3
74.4	91.5	110.9	136.5	167.9	210.7	
77.0	94.8	114.8	141.3	173.8	218.1	
79.7	97.4	118.8	146.2	179.9	225.7	
82.5	100.0	123.0	151.4	186.2	233.6	

◆トーン信号の周波数は各バンドごとに設定できます。

◆トーン信号の周波数を呼び出し状態でメインダイヤルおよびUP/DOWNキーを操作することにより、相手局のトーン信号の周波数を探すことができます。

別売り品を使って

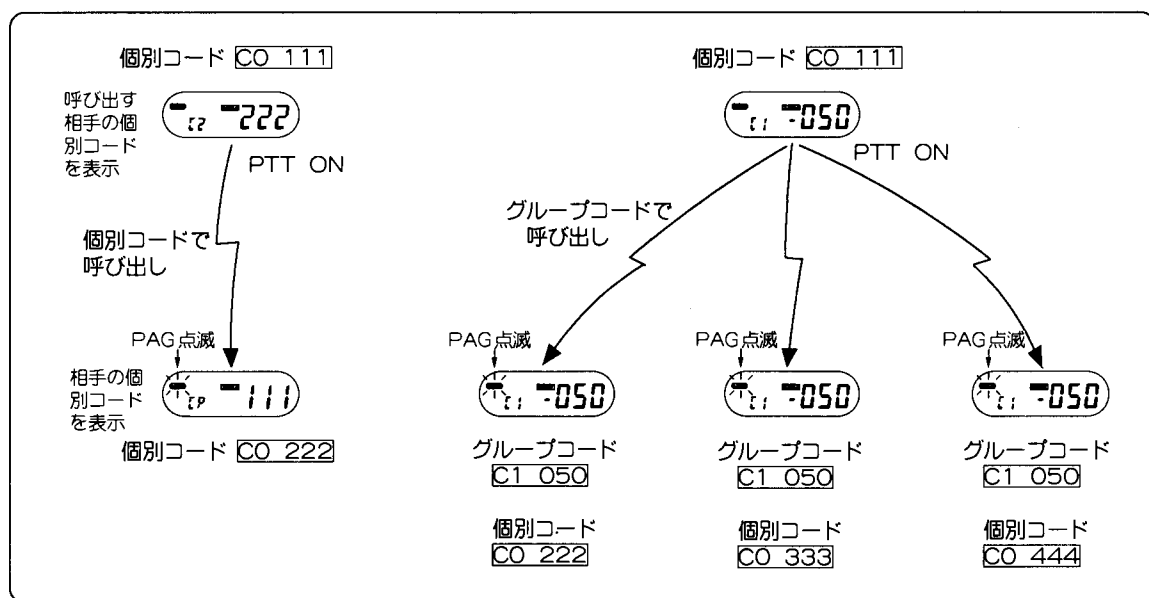
タッチトーンユニット (CTD5700) を使って

タッチトーンユニットをこの無線機につけることで、特定の人や、グループを呼び出すことができます。このときに、ページングコードやコードスケルチのコードを呼び出す人に合わせます。

●ページングとは、

話したい人の個別コードに合わせ、呼び出します。このとき、呼び出された人は、ディスプレイに呼び出した人の個別コードが表示されます。また、同時にアラームが鳴ります。

グループを呼び出すときは、グループコードを合わせ呼び出します。このとき、呼び出されたグループの人達は、ディスプレイにグループコードが表示されます。また、同時にアラームが鳴ります。



●コードスケルチとは、

話したい人の個別コードに合わせ、呼び出します。このとき、呼び出された人は、コードスケルチが開きます。また、アラームは鳴らないため、すぐに話しを始めることができます。

グループを呼び出すときは、グループコードを合わせ呼び出します。このとき、呼び出された人達は、コードスケルチが開きます。また、アラームは鳴らないため、すぐに話しを始めることができます。

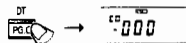
自分の個別コードを設定するには

コントロールヘッドでは、

- 1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ

- 2 VFO 状態を確かめる

- 3 ディスプレーの表示がコードを決める状態になるまで、[PG.C/DT]キーを押す

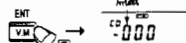


- 4 メインダイヤルを回して、自分の個別コードメモリーにする (個別コードは、C0に設定します。)

- 5 [FNC]キーを押す



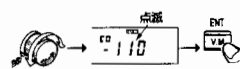
- 6 [V.M/ENT]キーを押す



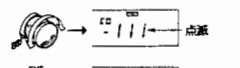
- 7 メインダイヤルを回し、1桁目を決め[V.M/ENT]キーを押す



- 8 メインダイヤルを回し、2桁目を決め[V.M/ENT]キーを押す



- 9 メインダイヤルを回し、3桁目を決め[V.M/ENT]キーを押す



- 10 VFO 状態になるまで、[PG.C/DT]キーを押す

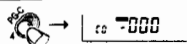


フルリモコンマイクでは、

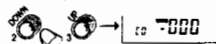
- 1 [D/BAND]キーでバンドを選ぶ

- 2 VFO 状態を確かめる

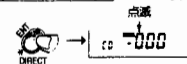
- 3 ディスプレーの表示がコードを決める状態になるまで、[4/PG-C]キーを押す



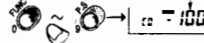
- 4 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、自分の個別コードメモリーにする (個別コードは、C0に設定します。)



- 5 [* /ENT-DIRECT]キーを押す



- 6 テンキーを押し、1桁目を入力する



- 7 テンキーを押し、2桁目を入力する



- 8 テンキーを押し、3桁目を入力する



- 9 VFO 状態になるまで、[4/PG-C]キーを押す



話したい相手のページング・コードスケルチのコードを決めるには

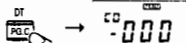
話したい相手を呼び出す前に、相手のコードを決める必要があります。

コントロールヘッドでは、

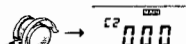
- 1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ

- 2 VFO 状態を確かめる

- 3 ディスプレーの表示がコードを決める状態になるまで、[PG.C/DT]キーを押す



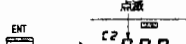
- 4 メインダイヤルを回して、相手の個別コードメモリーにする (相手の個別コードは、C1-C5に設定できます。)



- 5 [FNC]キーを押す



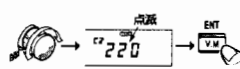
- 6 [V.M/ENT]キーを押す



- 7 メインダイヤルを回し、1桁目を決め[V.M/ENT]キーを押す



- 8 メインダイヤルを回し、2桁目を決め[V.M/ENT]キーを押す



- 9 メインダイヤルを回し、3桁目を決め[V.M/ENT]キーを押す



- 10 VFO 状態になるまで、[PG.C/DT]キーを押す

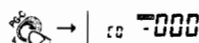


フルリモコンマイクでは、

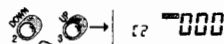
- 1 [D/BAND]キーでバンドを選ぶ

- 2 VFO 状態を確かめる

- 3 ディスプレーの表示がコードを決める状態になるまで、[4/PG-C]キーを押す



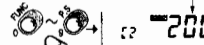
- 4 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、相手の個別コードメモリーにする (相手の個別コードは、C1-C5に設定できます。)



- 5 [* /ENT-DIRECT]キーを押す



- 6 テンキーを押し、1桁目を入力する



- 7 テンキーを押し、2桁目を入力する



- 8 テンキーを押し、3桁目を入力する



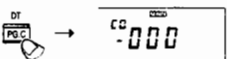
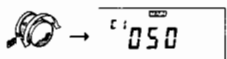
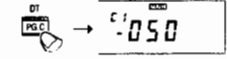
- 9 VFO 状態になるまで、[4/PG-C]キーを押す



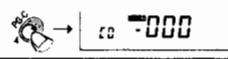
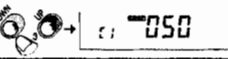
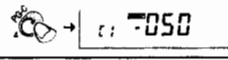
別売り品を使って

グループコードを設定するには

コントロールヘッドでは、

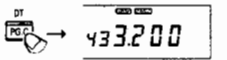
- 1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確かめる
- 3 ディスプレーの表示がコードを決める状態になるまで、[PG.C/DT]キーを押す

- 4 メインダイヤルを回して、グループコードにしたいメモリーを呼び出す (グループコードは、C1~C5 に設定できます。)

- 5 [PG.C/DT]キーを押す (コード表示の前に-が表示されグループコードになりました。)

- 6 VFO 状態になるまで、[PG.C/DT]キーを押す

フルリモコンマイクでは、

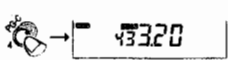
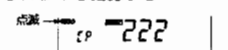
- 1 [D/BAND]キーでバンドを選ぶ
 - 2 VFO 状態を確かめる
 - 3 ディスプレーの表示がコードを決める状態になるまで、[4/PG-C]キーを押す

 - 4 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、グループコードにしたいメモリーを呼び出す (グループコードは、C1~C5 に設定できます。)

 - 5 [4/PG-C]キーを押す (コード表示の前に-が表示されグループコードになりました。)

 - 6 VFO 状態になるまで、[4/PG-C]キーを押す
- ◆グループコードを解除するには、グループが設定されているコードで同じ手順を行います。このとき、コード表示の前の“-”が消えたことを確認します。

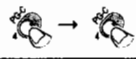
ページングを使うには

コントロールヘッドでは、
(呼ばれるとき)

- 1 [144]キーまたは[430]キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確かめる
- 3 スケルチの状態が正しいことを確かめる (スピーカーよりザー音が出ていない状態)
- 4 [PG.C/DT]キーを押す

- 5 相手より呼ばれると、PAGが点滅しアラームが鳴る 相手の個別番号またはグループ番号がディスプレイに表示されるのを確認する


フルリモコンマイクでは、
(呼ばれるとき)

- 1 [D/BAND]キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確かめる
- 3 スケルチの状態が正しいことを確かめる (スピーカーよりザー音が出ていない状態)
- 4 [4/PG-C]キーを押す

- 5 相手より呼ばれると、PAGが点滅しアラームが鳴る 相手の個別番号またはグループ番号がディスプレイに表示されるのを確認する

- 6 [PTT]を押し応答する

- 7 [4/PG-C]キーを2回押す

- 8 [PTT]を押す

- 9 これより後は、普通の交信と同じ

◆手順7でページングを解除しないと、送信するたびページングの信号を出しスムーズな交信ができません。

◆ページングで呼び出すときには、手順4でページングを設定した後にPTTを押すことにより呼び出しができます。相手からの応答があった後は手順7に従ってページングを解除してください。

ページング信号が出るまでの時間を変えるには

通常、ページング信号は PTT が押されてから約 250 m 秒後に出ます。
この時間を約 450 m 秒または約 850 m 秒に変更できます。

コントロールヘッドでは、

- 1 VFO を確かめる
- 2 **FNC** キーを押しながら、**V.M/ENT** キーを押す
- 3 メインダイヤルを回し、セットモードの 09 にする
- 4 **V.M/ENT** キーを押す、ディスプレイの表示を 250 から 450 または 850 にする
- 5 変更する時間が決まったら、**FNC** キーを押しながら、**V.M/ENT** キーを押す
- 6 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 VFO 状態を確かめる
- 2 **SET** キーを押す
- 3 **2/DOWN** キーまたは **3/UP** キーを押す、セットモードの 09 にする
- 4 **#V-M** キーを押す、ディスプレイの表示を 250 から 450 または 850 にする
- 5 変更する時間が決まったら、**SET** キーを押す
- 6 VFO 状態に戻ったことを確かめる

アラームの回数を変えるには

ページングで呼ばれたとき、通常は 7 回アラームが鳴ります。このアラームの鳴る回数を 1 回にすることができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 VFO 状態を確かめる
- 2 **FNC** キーを押しながら、**V.M/ENT** キーを押す
- 3 メインダイヤルを回し、セットモードの 10 にする
- 4 **V.M/ENT** キーを押す、ディスプレイの表示を 7 から 1 にする
- 5 **FNC** キーを押しながら、**V.M/ENT** キーを押す
- 6 VFO 状態に戻ったことを確かめる

フルリモコンマイクでは、

- 1 VFO 状態を確かめる
- 2 **SET** キーを押す
- 3 **2/DOWN** キーまたは **3/UP** キーを押す、セットモードの 10 にする
- 4 **#V-M** キーを押す、ディスプレイの表示を 7 から 1 にする
- 5 **SET** キーを押す
- 6 VFO 状態に戻ったことを確かめる

コードスケルチを使うには

コントロールヘッドでは、

- 1 **144** キーまたは **430** キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確かめる
- 3 スケルチの状態が正しいことを確かめる (スピーカーよりザー音が出ていない状態)
- 4 **PG/C/DI** キーを 2 回押す
- 5 相手より呼ばれ、コードが合うとコードスケルチが開く
- 6 相手を呼び出すには、**PTT** を押す

フルリモコンマイクでは、

- 1 **D/BAND** キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確かめる
- 3 スケルチの状態が正しいことを確かめる (スピーカーよりザー音が出ていない状態)
- 4 **4/PG-C** キーを 2 回押す
- 5 相手より呼ばれ、コードが合うとコードスケルチが開く
- 6 相手を呼び出すには、**PTT** を押す

ページング運用を使った例 (1) 特定の人を呼び出すとき

- 1 A さん B さん C さん
CO-111 CO-222 CO-333
自局コード 自局コード 自局コード
C2-222 B さんのコード C2-111 A さんのコード
コードは入っていない
- 2 A さんが B さんを呼ぶ
A さん B さん C さん
222 320 320
PTT を押す
- 3 B さんが呼ばれる
A さん B さん C さん
320 111 320
- 4 B さんが答える
A さん B さん C さん
320 111 320
PTT を押す
- 5 A さんと B さんの間で交信が始められる
A さん B さん C さん
222 320 320
ページングを解除する

ページング運用を使った例 (2) グループを呼び出すとき

- 1 A さん B さん C さん D さん
CO-111 CO-222 CO-333 CO-444
自局コード 自局コード 自局コード 自局コード
C1-050 C1-050 C1-050 A さん B さん C さんと同じグループコードが入っていない
- 2 A さんがグループを呼び出す
A さん B さん C さん D さん
050 320 320 320
PTT を押す
- 3 B さんと C さんが呼ばれる
A さん B さん C さん D さん
320 050 050 320
- 4 B さんが答える
A さん B さん C さん D さん
320 050 050 320
PTT を押す
- 5 A さんと B さんの間で交信が始められる
A さん B さん C さん D さん
050 320 050 320
ページングを解除する
C さんがページングを解除しないと、これからは A さんと B さんの交信は聞けません。

DTMF を使うには

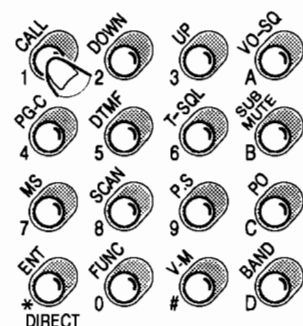
本機では、DTMF 信号の送出方法が2通りあります。

第1の方法は、**PTT**を押しながらフルリモコンマイクのキーを押す方法です。

第2の方法は、DTMF コードをメモリーし、そのコードを送出する方法です。

● **PTT**を押しながら、DTMF 信号を送出するには

- 1 **PTT**を押しながら、キーを押す
(このとき、有効なキーは0~9、A~D、*、#です。)



◆ DTMF 信号は、キーを押している間だけ
送出されます。

DTMF コードをメモリーするには

●最大15桁のDTMF 信号をDTMF 専用メモリーにメモリーできます。

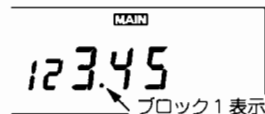
15桁のDTMF 信号は5桁ずつ3つのブロックにわけられています。

(15桁まで)



ディスプレイでは以下のようにして、どのブロックが表示されているか確認できます。

ブロック1を呼び出したとき



ブロック2を呼び出したとき



ブロック3を呼び出したとき



●専用メモリーは、144 MHz 帯と 430 MHz 帯の共通で6個あります。DTMF 信号をメモリーすることで、より簡単に操作が行えます。

メモリーできるコードは、0~9、A~D、*、#です。

ディスプレイでは、コードは次のように表示されます。

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	*	#
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F

ディスプレイの表示

DTMF コードをメモリーするには

コントロールヘッドでは、

- 1 VFO 状態をかめる
- 2 **[FNC]** キーを押す
- 3 ディスプレーの表示がコードを決める状態になるまで、**[PG.C/DI]** キーを押す
- 4 **[FNC]** キーを押し、FUNC モードを解除する
- 5 メインダイヤルを回し、メモリーする番号にする (メモリーは、C0-C5 に設定できます。)
- 6 **[FNC]** キーを押す
- 7 **[V.M/ENT]** キーを押す

- 8 ディスプレーが1桁目の入力待ちになるのを確認する
- 9 メインダイヤルを回し、メモリーするコードにする
- 10 **[V.M/ENT]** キーを押す
- 11 メインダイヤルを回し、2桁目のコードをメモリーする
- 12 同様の手順を15桁目まで繰り返す
- 13 **[FNC]** キーを押す
- 14 VFO 状態に戻るまで、**[PG.C/DI]** キーを押す

フルリモコンマイクでは、

- 1 VFO 状態をかめる
- 2 ディスプレーの表示がコードを決める状態になるまで、**[5/DTMF]** キーを押す
- 3 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押し、メモリーする番号にする (メモリーは、C0-C5 に設定できます。)
- 4 **[*/ENT-DIRECT]** キーを押す

- 5 ディスプレーが1桁目の入力待ちになるのを確認する
- 6 テンキーを使い、1桁から15桁までコードを入力する
- 7 VFOに戻るまで、**[5/DTMF]** キーを押す

◆入力するコードが15桁より短いときは、PTTを押すと、それまでのコードが入力されます。

DTMF コードを書き換えるには

DTMF 専用メモリーに入っている DTMF 信号を変更することができます。

コントロールヘッドでは、

- 1 VFO 状態をかめる
- 2 **[FNC]** キーを押す
- 3 ディスプレーがコード表示になるまで、**[PG.C/DI]** キーを押す
- 4 **[FNC]** キーを押し、FUNC モードを解除する
- 5 メインダイヤルを回し、変更するメモリー番号にする
- 6 **[FNC]** キーを押す
- 7 **[V.M/ENT]** キーを押す

- 8 ディスプレーが1桁目の入力待ちになるのを確認する
- 9 メインダイヤルを回し、メモリーするコードにする
- 10 **[V.M/ENT]** キーを押す
- 11 変更しないコードは、**[V.M/ENT]** キーを押す
- 12 同様の手順を15桁目まで繰り返す
- 13 **[FNC]** キーを押す
- 14 VFO に戻るまで、**[PG.C/DI]** キーを押す

フルリモコンマイクでは、

- 1 VFO 状態をかめる
- 2 ディスプレーがコード表示になるまで、**[5/DTMF]** キーを押す
- 3 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押し、変更するメモリー番号にする
- 4 **[*/ENT-DIRECT]** キーを押す

- 5 ディスプレーが1桁目の入力待ちになるのを確認する
- 6 テンキーを使い、1桁から15桁までコードを入力しなおす
- 7 VFO に戻るまで、**[5/DTMF]** キーを押す

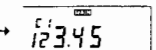
◆フルリモコンマイクでは、コードを変更するときは、すべて入力しなおしになります。変更しないコードは、同じコードを入力してください。

別売り品を使って

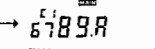
メモリーしたDTMFコードを確認するには

コントロールヘッドでは、

- 1 144キーまたは430キーで/ノンドを選ぶ
- 2 VFO状態をかめる
- 3 [FNC]キーを押す

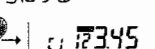
- 4 ディスプレーがコード表示になるまで、[PG.C/DI]キーを押す
 
- 5 [FNC]キーを押し、FUNCモードを解除する
- 6 メインダイヤルを回し、確認したいメモリー番号にする
 

- 7 [FNC]キーを押す

- 8 メインダイヤルを回し、メモリーの内容を確認する
 
- 9 FUNCモードが解除されているときは[FNC]キーを押す

- 10 VFOに戻るまで[PG.C/DI]キーを押す


フルリモコンマイクでは、

- 1 VFO状態をかめる
- 2 ディスプレーがコード表示になるまで、[5/DTMF]キーを押す
 
- 3 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、確認したいメモリー番号にする
 
- 4 [0/FUNC]キーを押す

- 5 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、メモリーの内容を確認する
 

- 6 [0/FUNC]キーを押して、FUNCモードを解除する

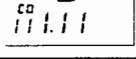
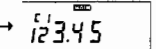
- 7 ディスプレーの表示がVFO状態に戻るまで、[5/DTMF]キーを押す

- 8 VFOに戻ったことを確認する

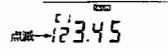
メモリーしたDTMFコードを消去するには

コントロールヘッドでは、

- 1 VFO状態をかめる
- 2 [FNC]キーを押す

- 3 ディスプレーがコード表示になるまで、[PG.C/DI]キーを押す
 
- 4 [FNC]キーを押し、FUNCモードを解除する
- 5 メインダイヤルを回し、消去したいメモリー番号にする
 
- 6 [FNC]キーを押す

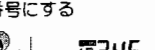

- 7 [V.M/ENT]キーを押す

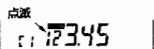
- 8 ディスプレーが1桁目の入力待ちになるのを確認する

- 9 マイクの[PTT]を押す

- 10 [FNC]キーを押す

- 11 VFOに戻るまで[PG.C/DI]キーを押す


フルリモコンマイクでは、

- 1 VFO状態をかめる
- 2 ディスプレーがコード表示になるまで、[5/DTMF]キーを押す
 
- 3 [2/DOWN]キーまたは[3/UP]キーを押し、消去したいメモリー番号にする
 
- 4 [*ENT-DIRECT]キーを押す

- 5 ディスプレーが1桁目の入力待ちになるのを確認する


- 6 マイクの[PTT]を押す

- 7 ディスプレーの表示がVFO状態に戻るまで、[5/DTMF]キーを押す

- 8 VFOに戻ったことを確認する

メモリーしたDTMFコードを送出するには

コントロールヘッドとリモコンマイクでは、

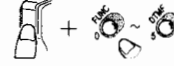
- 1 VFO 状態を確かめる
- 2 **[FNC]** キーを押す
- 3 ディスプレーがコード表示になるまで、**[PG.C/DT]** キーを押す
- 4 **[FNC]** キーを押し、FUNC モードを解除する
- 5 メインダイヤルを回し、送りたいメモリー番号にする
- 6 **[FNC]** キーを押す
- 7 VFO に戻るまで、**[PG.C/DT]** キーを押す

- 8 **[144]** キーまたは **[430]** キーでバンドを選ぶ
- 9 **[FNC]** キーを押す
- 10 **[PG.C/DT]** キーを押す
- 11 ディスプレーに DTMF が表示されていることを確認する
- 12 **[PTT]** を押しながら、**[SQL-OFF]** キーを押す
- 13 DTMF 表示を消すには、**[FNC]** キーを押した後に **[PG.C/DT]** キーを押す

フルリモコンマイクでは

- 1 **[D/BAND]** キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO を確かめる
- 3 **[5/DTMF]** キーを押す
- 4 ディスプレーに DT が表示されることを確認する

- 5 **[PTT]** を押しながら、送りたいメモリー番号を 0-5 のキーで押す
(この操作で、メモリーされている DTMF コードが送出されます。)



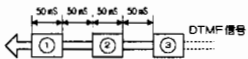
- 6 DT 表示を消すには、**[5/DTMF]** キーを押す

◆DT 表示が表示されていると、16 キーに対応した DTMF トーンを出力することができません。

◆この動作はコントロールヘッド (CRC5700) とリモコンマイク (CMP842) とが接続されているときの動作です。手順 11 をフルリモコンマイク (CMP843) で行なっても DTMF メモリーを送出することはできません。

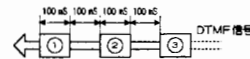
DTMF コードの送出スピードを変更するには

通常、DTMF 信号は 50 m 秒のスピードで送出されます。このスピードを 100 m 秒に変えることができます。



コントロールヘッドでは、

- 1 **[144]** キーまたは **[430]** キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確かめる
- 3 **[FNC]** キーを押しながら、**[V.M/ENT]** キーを押す
- 4 メインダイヤルを回し、セットモードの 08 にする
- 5 **[V.M/ENT]** キーを押し、ディスプレイの表示を 50 から 100 にする
- 6 **[FNC]** キーを押しながら、**[V.M/ENT]** キーを押す
- 7 VFO 状態に戻ったことを確かめる



フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]** キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確かめる
- 3 **[SET]** キーを押す
- 4 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押し、セットモードの 08 にする
- 5 **[#V.M]** キーを押し、ディスプレイの表示を 50 から 100 にする
- 6 **[SET]** キーを押す
- 7 VFO 状態に戻ったことを確かめる

DTMF をシングルトーンに変えるには

通常、DTMF 信号は 2 つのトーン信号を併せて、1 つの DTMF 信号として送出します。この信号を 1 つの信号 (シングルトーン) を送出するように変えることができます。



コントロールヘッドでは、

- 1 **[144]** キーまたは **[430]** キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確かめる
- 3 **[FNC]** キーを押しながら、**[V.M/ENT]** キーを押す
- 4 メインダイヤルを回し、セットモードの 11 にする
- 5 **[V.M/ENT]** キーを押し、ディスプレイの表示を OFF から on にする
- 6 **[FNC]** キーを押しながら、**[V.M/ENT]** キーを押す
- 7 VFO 状態に戻ったことを確かめる

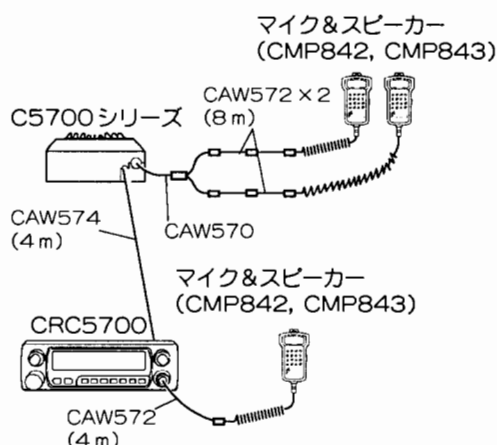


フルリモコンマイクでは、

- 1 **[D/BAND]** キーでバンドを選ぶ
- 2 VFO 状態を確かめる
- 3 **[SET]** キーを押す
- 4 **[2/DOWN]** キーまたは **[3/UP]** キーを押し、セットモードの 11 にする
- 5 **[#V.M]** キーを押し、ディスプレイの表示を OFF から on にする
- 6 **[SET]** キーを押す
- 7 VFO 状態に戻ったことを確かめる

別売り品を使って

別売りケーブル(CAW570~CAW575)を使って



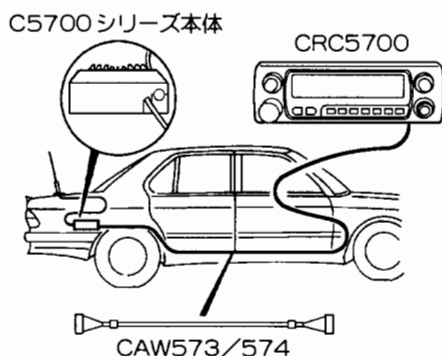
別売りのデュアルマイクロホンケーブル (CAW570)、延長ケーブル(CAW571/CAW572) リモートケーブル (CAW573/CAW574) を使うと、最大3本までマイクを接続できます。

延長ケーブルは8m以内で接続ができます。使用例として図のような組み合わせで使うことができます。



◆8m以上延長すると正常に動作をしないことがあります。

◆デュアルマイクロホンケーブル (CAW570) およびマイクロホンのコードの長さは含みません。



延長ケーブルやリモートケーブルを使って、本体をトランクの中等に入れることもできます。



本体をトランクの中等に入れる場合、別売りの延長電源ケーブル (CAW575) 長さ5mを利用されると便利です。

ご参考に

故障とお考えになる前に	78
オプション（別売り品）の紹介	79
アフターサービスについて	79
定 格	80
運用にあたって	81
申請書の書きかた	82
送信系統図	83
さくいん	84

故障とお考えになるまえに

サービスを依頼される前に、ご面倒ですが次のことをお調べください。
 下記の項目をチェックしてもなおらない場合は、お買い上げになった販売店、お近くの弊社営業所、または弊社サービスセンターにご相談ください。

	現 象	主な原因および処置
電源関係	電源が入らない。	* ヒューズの確認。 * DC コードの抜け。 * DC IN 13.8V 端子に過電圧（直流18V以上）が加わっている。 * DC IN 13.8V のプラグを抜き、DC 電源の電圧を確認してください。
	片方のバンドの周波数表示が消えたまま。	* 表示部を消す動作になっている。
表示関係	表示部が暗い。	* ティマー動作になっている。
	強い信号しか受信しない。	* アンテナの整合が悪い。 * アンテナが外れている、緩んでいる。 * SQL ツマミが時計方向に回し切つてある。 * 同軸ケーブルが外れている、緩んでいる。 * RF スケルチ動作になっている。
受信関係	スケルチが閉じない。ザーという音が出ている。	* リモコンマイクによってスケルチオフになっている。 * リモートモードでフルリモコンマイクによってスケルチが開いている。
	信号を受信しない。	* アンテナが外れている、緩んでいる。 * 同軸ケーブルが外れている、緩んでいる。
	受信音がしない。	* トーンスケルチ動作中は、同一トーン周波数でないと、受信音が聞こえません。 * 外部スピーカーの接続確認。 * 音量ボリュームの位置を確認。 * ベーシングモードまたは、コードスケルチモードになっている。 * セットモードの05、06を確認
	受信音が小さい。	* サブバンドミュート動作になっている。
	リモコンマイクから音量調節ができない。	* 本体ボリュームがリモートポジションになっていない。 （反時計方向に回し切っていない）
送信関係	送信出力が少ない。	* アンテナとの整合が悪い。 * Low パワーモードになっている。 * アンテナが外れている、緩んでいる。 * アンテナが接続されていない、緩んでいる。
レピータ関係	自動的にT-表示になる。	* JARL 設定のレピータ周波数（439 MHz 台）になると、自動的にT-を表示します。
	自動的にT-, T+表示が消える。	* レピータ周波数以外になると自動的にT-, T+を解除します。
	レピータ局をアクセスしない。	* トーン周波数が異なっている。 * レピータ局との距離が遠い。 * シフト周波数が異なっている。 * シフト方向が+になっている。
	表示部にOFFが表示される	* シフトされた周波数がOFFバンドになっている。
スキヤン関係	スキヤンしない。	* SQL ツマミが反時計方向に回し切つてある。 * SQL ツマミを調節をしてください。
	メモリスキャンしない。	* メモリー周波数がメモリーされていないと、メモリスキャンしません。
	プログラムスキヤンしない。	* スタート周波数とエンド周波数がメモリーされていない。

	現 象	主な原因および処置
メモリー関係	すべてのメモリーが消去できない。	*リセット時ノーマルリセットでリセットしている。
	特定のメモリーが消去、書き換えできない。 メモリーの書き込みができない。	*セットモード16でメモリープロテクトが設定されている。
ページング関係	ページング動作しない。	*CTD5700（別売り品）が実装されていない。 *ページング動作は、コードのメモリーが必要です。 *相手局とコードが一致していない。 *相手局または自局の電波が届かない。
	表示部にEが表示される。	*相手局コードの読み取りエラー表示です。
	コードが設定されない。	*CTD5700（別売り品）が実装されていない。
DTMF 関係	DTMF 信号が送出されない。	*あらかじめコードの設定が必要です。 *CTD5700（別売り品）が実装されていない。
その他	ピープ音がしない。	*セットモード00でピープオフが設定されている。

オプション（別売り品）の紹介

●本機をより楽しくご利用して頂くよう豊富なアクセサリーが用意されています。

CTD5700 : DTMF（タッチトーン）ユニット
 CTN5700 : CTCSS（トーンスケルチ）ユニット
 CMP843 : フルリモコンマイク&スピーカー
 CMP842 : リモコンマイク&スピーカー
 CRC5700 : コントロールヘッド
 CAX5700 : セパレートカバー
 CSK12 : 外部スピーカー
 CMU181 : メモリーユニット(各20チャンネル)
 CMU182 : メモリーユニット(各100チャンネル)

CAW570 : デュアルマイクケーブル
 CAW571 : マイク延長ケーブル（長さ2 m）
 CAW572 : マイク延長ケーブル（長さ4 m）
 CAW573 : リモートケーブル（長さ2 m）
 CAW574 : リモートケーブル（長さ4 m）
 CAW578 : リモートケーブル（長さ8 m）
 CAW575 : 延長電源ケーブル（長さ5 m）
 CMB5700 : モービルブラケット
 CMB5710 : モービルブラケット

※アクセサリーの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。

アフターサービスについて

保証について

- この製品の保証期間は1年間です。
- この製品には、保証書がついています。
- 保証書は、記入事項をよくご確認のうえ大切に保管してください。
- 保証期間内でも有料修理となることがあります。保証書をよくご確認ください。

保守サービスについて

- 保証期間経過後においても、修理が可能なものは、お客様のご要望により有料修理をいたします。なお、修理内容によっては、修理費が高額になる場合もありますのでご承知願います。

故障の場合は

- 「故障とお考えになる前に」をよくお読みのうえ、もう一度故障の状況をお調べください。それでも、うまく動かないときは、お買い上げになった販売店または弊社営業所、弊社サービスセンターにご相談ください。

定 格

1. 一般仕様

送受信周波数 …… VHF 144.000~145.995 MHz

UHF 430.000~439.995 MHz

電波型式 …… F2、F3

定格電圧 …… DC 13.8 V ± 15 %

消費電流・C5700 送信時 (Hi) 4.1 A

送信時 (Mid) 3.0 A

送信時 (Low) 2.0 A

待受受信時 1.0 A

C5710 送信時 (Hi) 4.0 A

送信時 (Mid) 2.9 A

送信時 (Low) 1.9 A

待受受信時 0.9 A

C5720 送信時 (Hi) 4.2 A

送信時 (Mid) 3.1 A

送信時 (Low) 2.1 A

待受受信時 1.1 A

C5700D 送信時 (Hi) 11.1 A

送信時 (Mid) 6.0 A

送信時 (Low) 4.6 A

待受受信時 1.0 A

C5710D 送信時 (Hi) 11.0 A

送信時 (Mid) 6.0 A

送信時 (Low) 4.5 A

待受受信時 0.9 A

C5720D 送信時 (Hi) 11.2 A

送信時 (Mid) 6.1 A

送信時 (Low) 4.7 A

待受受信時 1.1 A

マイクロホン入力インピーダンス …… 600 Ω

低周波出力インピーダンス …… 4 Ω

空中線インピーダンス …… 50 Ω

使用温度範囲 …… -20℃~+60℃

周波数安定度 …… ±3ppm

アンテナコネクタ …… M型 (ケーブル付)

接地方式 …… マイナス接地

本体寸法 …… C5700/D

(幅×高さ×奥行き) 140×40×150 mm

C5710/D

140×40×135 mm

C5720/D

140×40×150 mm

重 量 …… C5700/D 1.1 kg

C5710/D 1.0 kg

C5720/D 1.1 kg

2. 受 信

受信方式 …… ダブルスーパーヘテロダイン方式

中間周波数

144 MHz 帯 1st IF 44.95 MHz (Upper)

2nd IF 455 kHz (Lower)

430 MHz 帯 1st IF 23.05 MHz (Lower)

2nd IF 455 kHz (Lower)

受信感度

(12 dB SINAD) …… -16 dBμ (0.158 μV)*

選択度 …… 12 kHz 以上 (-6 dB)

24 kHz 以下 (-60 dB)

スケルチ開放感度 …… -19 dBμ (0.112 μV)*

低周波出力 …… 3.0 W (10%歪時)

0.5 μV 入力時 S/N 比 …… 30 dB 以上

3. 送 信

送信出力 …… C5700/C5710/C5720

Hi 10 W

Mid 5 W

Low 1 W

C5700D/C5710D/C5720D

144 MHz 帯 Hi 50 W

Mid 10 W

Low 3 W

430 MHz 帯 Hi 40 W

Mid 10 W

Low 3 W

変調方式 …… リアクタンス変調

最大周波数偏移 …… ±5 kHz

スプリアス発射強度 …… -60 dB

変調歪 …… 3%以下 (70%変調時)

(*は JAIA 測定法による値)

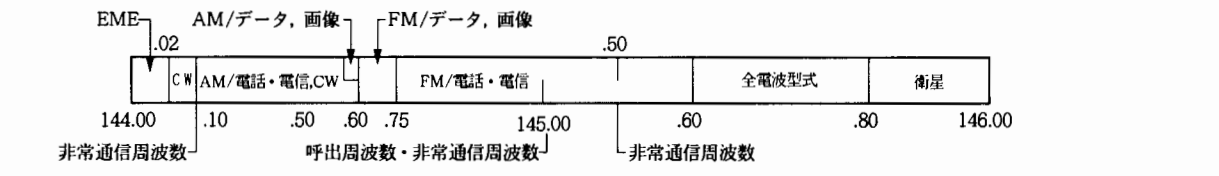
●本機の規格および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

運用にあたって

アマチュアバンドの使用区分は、混信の除去等を目的に制定されています。都会やその周辺の地域では144 MHzバンドや430 MHzバンドはFM電波を使用する局が多く、時間によっては「FM」(電話)の区分内では周波数が不足して出る時間のないくらい混雑しています。交信はできるだけ短く、お互いにゆずり合いの精神で運用してください。

- 1.使用区別図
- (1) 1907.5 kHzから10.25 GHzまでのアマチュアバンドにおけるアマチュア業務に使用する電波の型式および周波数は、使用区別図のとおりです。なお、144 MHz帯、430 MHz帯、1200 MHz帯および2400 MHz帯においては、JARLのアマチュア局によりJARLのアマチュア業務の中継用無線局を遠隔操作する場合には、A1、A2、F2およびF3電波により全周波数を使用することができます。
- (2) 使用区別図中の「呼出周波数・非常通信周波数」および「呼出周波数」は、FM/電話・電信の電波による連絡設定の通信を行う場合に使用することができます。
- (3) 使用区別図中の「非常通信周波数」は、非常通信が実施されていない場合は、その他の通信に使用することができます。

144 MHz 帯 周波数：MHz



430 MHz 帯 周波数：MHz



申請書の書きかた

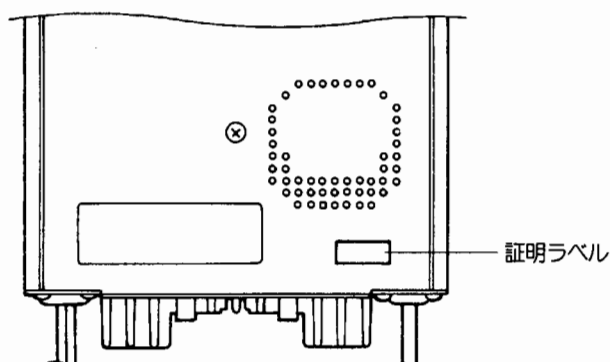
本機は技術基準適合機ですので「アマチュア無線局の無線設備の技適証明書発行・保証認定願」と「工事設計書」に技術基準適合証明番号を記載することで送信機系統図と工事設計書の発射可能な電波の型式、周波数の範囲以外の項目の記入を省略できます。

参考：

		C5700/C5710/C5720	C5700D/C5710D/C5720D
①	技術基準適合証明番号		
②	発射可能な電波の型式 周波数の範囲	F2, F3 144.000 MHz～145.995 MHz F2, F3 430.000 MHz～439.995 MHz	F2, F3 144.000 MHz～145.995 MHz F2, F3 430.000 MHz～439.995 MHz
	変調の方式	リアクタンス変調	リアクタンス変調
	定格出力	144 MHz 帯 10 W 430 MHz 帯 10 W	144 MHz 帯 50 W 430 MHz 帯 40 W
	終 段 管	名称・個数	144 MHz 帯 S-AV5 × 1 430 MHz 帯 M57704MR × 1
		電 圧	144 MHz 帯 13.4 V 430 MHz 帯 13.4 V
③	送信空中線の型式		
	その他工事設計	電波法第3章に規定する条件に合致している	

- ① 技術基準適合証明書番号は、本機の底面に貼られている証明ラベルの番号です。

技術基準適合証明でアマチュア無線局を開局する場合は、「技適証明発行願」と「工事設計書」には、この番号を記入してください。



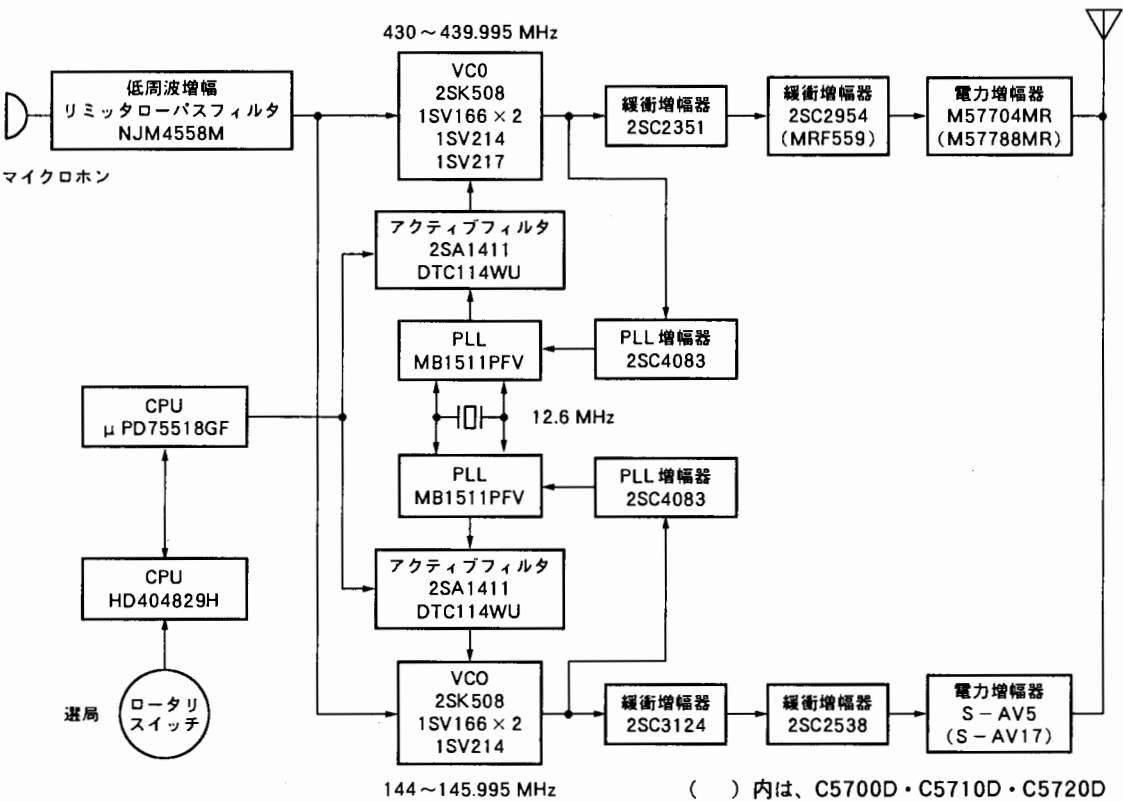
- ② 保証認定でアマチュア無線局を申請する場合は、「工事設計書」にこれらの項目を記入してください。

保証認定が必要な場合は、次の通りです。

1. JARL 登録送信機およびその改造送信機
2. 技適証明送信機を改造した改造送信機
3. 技適証明送信機に付属装置（TNC 装置、FAX 装置、RTTY 装置など）、トランスバータまたはブースタ等を付加した送信機
4. 自作した送信機

- ③ 使用する送信空中線（アンテナ）の型式を記入してください。単一型、八木型が一般的です。

送信機系統図



ご参考に

さくいん

1MHz スキャン	52	サブバンド	17	ポーズスキャン	50
B	54	受信	18	ホールドスキャン	50
CSQ	71	周波数ステップ	30	ミドルパワー	40
DTMF	72	周波数帯	17	ミュート	61
F	22, 27	シンプレックス運用	56	メインダイヤル	21
H	54	スキャン	50	メインバンド	17
L	40	スキャンスピード	54	メモリー	42
M	40	スケルチ	16	メモリースキャン	53
MAIN	17	スケルチオフ	38	メモリーリセット	62
MUTE	61	セットモード	63	リセット	62
PAG	70	送信	19	リバース	57
PTT ロック	60	送信出力	40	リモコンマイク	28
REM	20	ダイレクト入力	32	レピータ	56
RF スケルチ	39	ディスプレイ	23	ローパワー	40
RF メーター	23, 40	ディマー	20		
S メーター	23	電源	14		
T	67	電源ケーブル	10		
TSQ	67	トーンエンコーダー	67		
VFO	18	トーンスケルチ	67		
VFO リンク	60	ノーマルリセット	62		
アンテナ	11, 12	ハイパワー	40		
オートレピータ	57	バンド	17		
オールスキャン	52	バンドオフ	60		
オールリセット	62	ビーブ音	62		
オフセット周波数	57	ビジースキャン	50		
音量	15	プライオリティー	53		
キーロック	36	プライオリティースキャン	53		
グループコード	68, 70	ブラケット	8		
コードスケルチ	71	フルリモコンマイク	23, 25		
コール周波数	33	ブロック	53		
個別コード	68, 69	ブロックメモリースキャン	53		
固定局	12	ページング	70		
コントロールヘッド	9	別売りケーブル	76		

日本マランツ株式会社

本 社 〒 228 神奈川県相模原市相模大野 7 丁目 35 番 1 号
営業本部 〒 150 東京都渋谷区恵比寿南 1 丁目 11 番 9 号

ご注意：お問い合わせは最寄りの日本マランツ株式会社、各営業所
サービスセンターで承っております。
付属品の全国営業所一覧をご覧ください。